

0001

聴覚障害の基礎 > 外耳・中耳・内耳・聴覚路 | 難易度：基礎

問題

「外耳・中耳・内耳・聴覚路」の解剖生理を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

- ア：耳小骨の順序を整理する：ツチ骨→アブミ骨→キヌタ骨
- イ：外耳の役割を整理する：音波を集めて外耳道から鼓膜へ導く
- ウ：蝸牛の役割を整理する：外耳道の共鳴だけを生じさせる
- エ：基底膜の周波数局在を整理する：基底膜は周波数分析に関係しない

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は不適切である。順序が異なる。
- イ：この対応は適切である。耳介と外耳道は音を集め、鼓膜へ伝える。
- ウ：この対応は不適切である。外耳の機能である。
- エ：この対応は不適切である。重要な役割を持つ。

総合解説：音は外耳→鼓膜→耳小骨→蝸牛→聴神経→中枢へ伝わる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0002

聴覚障害の基礎 > 外耳・中耳・内耳・聴覚路 | 難易度：標準

問題

「外耳・中耳・内耳・聴覚路」について耳小骨の順序を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：蝸牛の役割を整理する：機械的振動を有毛細胞で神経電気信号へ変換する
- イ：基底膜の周波数局在を整理する：基底部は高周波、頂部側は低周波により反応しやすい
- ウ：聴覚路を統合して整理する：蝸牛神経→脳幹聴覚路→視床の内側膝状体→聴覚皮質
- エ：耳小骨の順序を整理する：アブミ骨→ツチ骨→キヌタ骨

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は正しい。蝸牛内の有毛細胞が振動を電気信号へ変換する。
- イ：この対応は正しい。蝸牛では場所によって最も反応しやすい周波数が異なる。
- ウ：この対応は正しい。聴覚情報は第Ⅷ脳神経から脳幹・視床を経て聴覚皮質へ上行する。
- エ：この対応が誤りである。順序が異なる。

総合解説：耳小骨連鎖は中耳の機械的伝音系を構成する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0003

聴覚障害の基礎 > 外耳・中耳・内耳・聴覚路 | 難易度：基礎

問題

外耳・中耳・内耳・聴覚路の学習で内耳生理を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：基底膜の周波数局在を整理する：基底膜は周波数分析に関係しない
イ：蝸牛の役割を整理する：機械的振動を有毛細胞で神経電気信号へ変換する
ウ：聴覚路を統合して整理する：嗅神経→視床下部→聴覚皮質
エ：鼓膜の役割を整理する：音の意味を理解する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。重要な役割を持つ。
イ：この対応は適切である。蝸牛内の有毛細胞が振動を電気信号へ変換する。
ウ：この対応は不適切である。聴覚路ではない。
エ：この対応は不適切である。大脳機能である。

総合解説：蝸牛は周波数分析と機械電気変換を担う。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0004

聴覚障害の基礎 > 外耳・中耳・内耳・聴覚路 | 難易度：標準

問題

「外耳・中耳・内耳・聴覚路」に関する知識を横断して確認する。基底膜の周波数局在を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：基底膜の周波数局在を整理する：全ての部位が全周波数へ同じに反応する
イ：聴覚路を統合して整理する：蝸牛神経→脳幹聴覚路→視床の内側膝状体→聴覚皮質
ウ：鼓膜の役割を整理する：外耳道から到達した音圧変化を機械的振動へ変換して耳小骨へ伝える
エ：アブミ骨の位置を整理する：卵円窓

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。場所依存性がある。
イ：この対応は正しい。聴覚情報は第VIII脳神経から脳幹・視床を経て聴覚皮質へ上行する。
ウ：この対応は正しい。鼓膜は空気振動と中耳機械系をつなぐ。
エ：この対応は正しい。アブミ骨の振動は卵円窓を介して蝸牛内液へ伝わる。

総合解説：このtonotopyは聴神経から聴覚皮質まである程度保たれる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0005

聴覚障害の基礎 > 外耳・中耳・内耳・聴覚路 | 難易度：応用

問題

外耳・中耳・内耳・聴覚路の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア：アブミ骨の位置を整理する：鼓膜臍 / 有毛細胞の働きを整理する：語音理解が即座に皮質を介さず完成する

イ：耳硬化症の病態を症例から判断できる：耳硬化症 / 両側性聴覚路の意味を整理する：聴覚皮質は音情報処理に関与しない

ウ：聴覚路を統合して整理する：蝸牛神経→脳幹聴覚路→視床の内側膝状体→聴覚皮質 / 鼓膜の役割を整理する：外耳道から到達した音圧変化を機械的振動へ変換して耳小骨へ伝える

エ：外耳の役割を整理する：音を電気信号へ変換する / 耳小骨の順序を整理する：ツチ骨→キヌタ骨→アブミ骨

答え・解説

正答：ウ

ア：に誤りを含む。鼓膜上の部位である。中枢処理が必要である。

イ：は正しいがに誤りがある。関与する。

ウ：とも正しい。聴覚情報は第VIII脳神経から脳幹・視床を経て聴覚皮質へ上行する。鼓膜は空気振動と中耳機械系をつなぐ。

エ：に誤りがある。主に内耳有毛細胞の役割である。は正しい。

総合解説：聴覚路は複数の脳幹核を経由し、両側性投射を持つ。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0006

聴覚障害の基礎 > 外耳・中耳・内耳・聴覚路 | 難易度：標準

問題

「外耳・中耳・内耳・聴覚路」について鼓膜の役割を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：アブミ骨の位置を整理する：卵円窓

イ：鼓膜の役割を整理する：音を神経インパルスへ直接変換する

ウ：有毛細胞の働きを整理する：イオンチャネルが開閉し、受容器電位の変化が生じる

エ：耳硬化症の病態を症例から判断できる：耳硬化症

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。アブミ骨の振動は卵円窓を介して蝸牛内液へ伝わる。

イ：この対応が誤りである。有毛細胞の役割である。

ウ：この対応は正しい。ステレオシリアの偏位が機械刺激を電気信号へ変換する。

エ：この対応は正しい。耳硬化症では異常な骨リモデリングによりアブミ骨が固着し、音の伝達が障害される。

総合解説：鼓膜穿孔や中耳病変は伝音難聴の原因となり得る。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0007

聴覚障害の基礎 > 外耳・中耳・内耳・聴覚路 | 難易度：基礎

問題

外耳・中耳・内耳・聴覚路の学習で中耳解剖を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：有毛細胞の働きを整理する：語音理解が即座に皮質を介さず完成する
イ：耳硬化症の病態を症例から判断できる：聴神経腫瘍だけ
ウ：アブミ骨の位置を整理する：卵円窓
エ：両側性聴覚路の意味を整理する：中枢では左右耳情報が一切交わらない

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。中枢処理が必要である。
イ：この対応は不適切である。後迷路性障害である。
ウ：この対応は適切である。アブミ骨の振動は卵円窓を介して蝸牛内液へ伝わる。
エ：この対応は不適切である。交叉と両側投射がある。

総合解説：耳硬化症ではアブミ骨の可動性低下が伝音障害を起こし得る。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0008

聴覚障害の基礎 > 外耳・中耳・内耳・聴覚路 | 難易度：標準

問題

「外耳・中耳・内耳・聴覚路」に関する知識を横断して確認する。有毛細胞の働きを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：耳硬化症の病態を症例から判断できる：耳硬化症
イ：両側性聴覚路の意味を整理する：一側の中枢病変だけでは片耳の完全聾になりにくい
ウ：外耳の役割を整理する：音波を集めて外耳道から鼓膜へ導く
エ：有毛細胞の働きを整理する：耳小骨が消失する

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。耳硬化症では異常な骨リモデリングによりアブミ骨が固着し、音の伝達が障害される。
イ：この対応は正しい。蝸牛神経核より上位では両側へ投射する経路が多い。
ウ：この対応は正しい。耳介と外耳道は音を集め、鼓膜へ伝える。
エ：この対応が誤りである。起こらない。

総合解説：機械電気変換は聴覚入力の出発点となる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0009

聴覚障害の基礎 > 外耳・中耳・内耳・聴覚路 | 難易度：応用

問題

「外耳・中耳・内耳・聴覚路」について耳硬化症の病態を症例から判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 耳硬化症の病態を症例から判断できる：耳硬化症 / 両側性聴覚路の意味を整理する：一側の中枢病変だけでは片耳の完全聾になりにくい

イ： 外耳の役割を整理する：聴覚情報を大脳皮質へ直接送る / 耳小骨の順序を整理する：アブミ骨→ツチ骨→キヌタ骨

ウ： 蝸牛の役割を整理する：機械的振動を有毛細胞で神経電気信号へ変換する / 基底膜の周波数局在を整理する：基底膜は周波数分析に関係しない

エ： 聴覚路を統合して整理する：嗅神経→視床下部→聴覚皮質 / 鼓膜の役割を整理する：外耳道から到達した音圧変化を機械的振動へ変換して耳小骨へ伝える

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 耳硬化症では異常な骨リモデリングによりアブミ骨が固着し、音の伝達が障害される。 蝸牛神経核より上位では両側へ投射する経路が多い。

イ： に誤りを含む。 聴覚路の役割である。 順序が異なる。

ウ： は正しいが に誤りがある。 重要な役割を持つ。

エ： に誤りがある。 聴覚路ではない。 は正しい。

総合解説：耳硬化症では聴力検査や中耳機能評価が診断に役立つ。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0010

聴覚障害の基礎 > 外耳・中耳・内耳・聴覚路 | 難易度：標準

問題

「外耳・中耳・内耳・聴覚路」について両側性聴覚路の意味を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：外耳の役割を整理する：音波を集めて外耳道から鼓膜へ導く

イ：耳小骨の順序を整理する：ツチ骨→キヌタ骨→アブミ骨

ウ：蝸牛の役割を整理する：機械的振動を有毛細胞で神経電気信号へ変換する

エ：両側性聴覚路の意味を整理する：片側皮質病変で常に同側耳だけ完全聾になる

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。耳介と外耳道は音を集め、鼓膜へ伝える。

イ：この対応は正しい。鼓膜振動はツチ骨、キヌタ骨、アブミ骨を介して内耳へ伝わる。

ウ：この対応は正しい。蝸牛内の有毛細胞が振動を電気信号へ変換する。

エ：この対応が誤りである。一般的ではない。

総合解説：中枢病変では音源定位や複雑な聴覚処理に障害が出ることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0011

聴覚障害の基礎 > 難聴の分類・病態 | 難易度：基礎

問題

難聴の分類・病態の学習で難聴分類を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：感音難聴を整理する：鼓膜穿孔だけ
イ：混合難聴を整理する：語音聴力だけ低下する状態
ウ：伝音難聴を整理する：外耳または中耳
エ：一側性・両側性を整理する：両耳に同程度の難聴がある状態

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。伝音障害である。
イ：この対応は不適切である。定義ではない。
ウ：この対応は適切である。外耳道、鼓膜、耳小骨などで音の伝達が阻害される。
エ：この対応は不適切である。両側性である。

総合解説：伝音難聴では骨導聴力が比較的保たれ、気骨導差が生じることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0012

聴覚障害の基礎 > 難聴の分類・病態 | 難易度：標準

問題

「難聴の分類・病態」に関する知識を横断して確認する。感音難聴を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：混合難聴を整理する：伝音系と感音系の両方に障害がある状態
イ：一側性・両側性を整理する：片耳に聴覚障害があり、反対耳の聴力は比較的保たれている状態
ウ：伝音・感音所見を統合できる：伝音難聴
エ：感音難聴を整理する：耳垢栓塞だけ

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。外耳・中耳の伝音障害と、内耳・神経系の障害が併存する。
イ：この対応は正しい。左右耳ごとの評価が必要である。
ウ：この対応は正しい。伝音系の障害では気導が悪化し、骨導は比較的保たれる。
エ：この対応が誤りである。伝音障害の原因である。

総合解説：蝸牛性と後迷路性では語音聴取や他覚検査の所見が異なることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0013

聴覚障害の基礎 > 難聴の分類・病態 | 難易度：基礎

問題

「難聴の分類・病態」の難聴分類を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：一側性・両側性を整理する：両耳に同程度の難聴がある状態
イ：混合難聴を整理する：伝音系と感音系の両方に障害がある状態
ウ：伝音・感音所見を統合できる：感音難聴
エ：加齢性難聴の特徴を整理する：通常は突然片耳だけ完全聾になる

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。両側性である。
イ：この対応は適切である。外耳・中耳の伝音障害と、内耳・神経系の障害が併存する。
ウ：この対応は不適切である。通常は気導・骨導とも同程度に悪化し気骨導差が小さい。
エ：この対応は不適切である。典型的ではない。

総合解説：気導・骨導の両方が悪化し、さらに気骨導差を伴うことがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0014

聴覚障害の基礎 > 難聴の分類・病態 | 難易度：標準

問題

「難聴の分類・病態」について一側性・両側性を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：伝音・感音所見を統合できる：伝音難聴
イ：加齢性難聴の特徴を整理する：多くは緩徐進行性で両側性にみられる
ウ：騒音性難聴の病態を整理する：内耳の有毛細胞
エ：一側性・両側性を整理する：高音域だけ聞こえにくい状態

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。伝音系の障害では気導が悪化し、骨導は比較的保たれる。
イ：この対応は正しい。加齢に伴う内耳や神経路などの変化で徐々に聴力が低下する。
ウ：この対応は正しい。大きな音への曝露は蝸牛の感覚細胞を傷害し得る。
エ：この対応が誤りである。周波数特性の分類である。

総合解説：一側性でも騒音下聴取や音源定位に困難が生じることがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0015

聴覚障害の基礎 > 難聴の分類・病態 | 難易度：応用

問題

「難聴の分類・病態」について伝音・感音所見を統合できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 伝音・感音所見を統合できる：伝音難聴 / 加齢性難聴の特徴を整理する：多くは緩徐進行性で両側性にみられる

イ： 騒音性難聴の病態を整理する：耳介だけ / 耳硬化症の難聴型を整理する：視覚障害

ウ： 急性難聴の扱いを症例から判断できる：急性感音難聴を疑い、速やかな耳鼻咽喉科評価につなげる / 非対称性難聴の意味を整理する：語音検査は不要とする

エ： 伝音難聴を整理する：蝸牛有毛細胞だけ / 感音難聴を整理する：蝸牛または第VIII脳神経

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 伝音系の障害では気導が悪化し、骨導は比較的保たれる。 加齢に伴う内耳や神経路などの変化で徐々に聴力が低下する。

イ： に誤りを含む。 主病変ではない。 無関係である。

ウ： は正しいが に誤りがある。 左右差評価に役立つ。

エ： に誤りがある。 感音難聴の原因となる。 は正しい。

総合解説：気骨導差は伝音成分の存在を示す重要な所見である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0016

聴覚障害の基礎 > 難聴の分類・病態 | 難易度：標準

問題

「難聴の分類・病態」に関する知識を横断して確認する。加齢性難聴の特徴を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：加齢性難聴の特徴を整理する：必ず伝音難聴だけになる

イ：騒音性難聴の病態を整理する：内耳の有毛細胞

ウ：耳硬化症の難聴型を整理する：伝音難聴

エ：急性難聴の扱いを症例から判断できる：急性感音難聴を疑い、速やかな耳鼻咽喉科評価につなげる

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。主に感音系である。

イ：この対応は正しい。大きな音への曝露は蝸牛の感覚細胞を傷害し得る。

ウ：この対応は正しい。中耳の振動伝達が妨げられるため伝音成分が生じる。

エ：この対応は正しい。突然の片耳難聴は迅速な医学的評価が必要な病態である。

総合解説：騒音曝露、遺伝、全身疾患、薬剤なども影響する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0017

聴覚障害の基礎 > 難聴の分類・病態 | 難易度：基礎

問題

「難聴の分類・病態」の病態を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：耳硬化症の難聴型を整理する：視覚障害
イ：騒音性難聴の病態を整理する：内耳の有毛細胞
ウ：急性難聴の扱いを症例から判断できる：補聴器だけ購入して終了する
エ：非対称性難聴の意味を整理する：左右差は常に正常なので評価不要とする

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。無関係である。
イ：この対応は適切である。大きな音への曝露は蝸牛の感覚細胞を傷害し得る。
ウ：この対応は不適切である。原因評価が必要である。
エ：この対応は不適切である。重要な所見になり得る。

総合解説：騒音の強さ、曝露時間、音源との距離がリスクに関係する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0018

聴覚障害の基礎 > 難聴の分類・病態 | 難易度：標準

問題

「難聴の分類・病態」について耳硬化症の難聴型を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：急性難聴の扱いを症例から判断できる：急性感音難聴を疑い、速やかな耳鼻咽喉科評価につなげる
イ：非対称性難聴の意味を整理する：後迷路性病変などを含め原因精査を検討する
ウ：耳硬化症の難聴型を整理する：純粋な後迷路性難聴
エ：伝音難聴を整理する：外耳または中耳

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。突然の片耳難聴は迅速な医学的評価が必要な病態である。
イ：この対応は正しい。非対称性難聴は単純な加齢性変化だけで説明できない場合がある。
ウ：この対応が誤りである。主病変は中耳である。
エ：この対応は正しい。外耳道、鼓膜、耳小骨などで音の伝達が阻害される。

総合解説：進行例では内耳成分が加わり混合難聴となることもある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0019

聴覚障害の基礎 > 難聴の分類・病態 | 難易度：応用

問題

「難聴の分類・病態」の病態・緊急性について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 伝音難聴を整理する：聴神経だけ / 感音難聴を整理する：耳垢栓塞だけ
イ： 混合難聴を整理する：伝音系と感音系の両方に障害がある状態 / 一側性・両側性を整理する：両耳に同程度の難聴がある状態
ウ： 急性難聴の扱いを症例から判断できる：急性感音難聴を疑い、速やかな耳鼻咽喉科評価につなげる / 非対称性難聴の意味を整理する：後迷路性病変などを含め原因精査を検討する
エ： 伝音・感音所見を統合できる：感音難聴 / 加齢性難聴の特徴を整理する：多くは緩徐進行性で両側性に見られる

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 感音・神経性難聴に関係する。 伝音障害の原因である。
イ： は正しいが に誤りがある。 両側性である。
ウ： とともに正しい。 突然の片耳難聴は迅速な医学的評価が必要な病態である。 非対称性難聴は単純な加齢性変化だけで説明できない場合がある。
エ： に誤りがある。 通常は気導・骨導とも同程度に悪化し気骨導差が小さい。 は正しい。

総合解説：難聴の発症様式は病態推定と緊急度判断に重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0020

聴覚障害の基礎 > 難聴の分類・病態 | 難易度：標準

問題

「難聴の分類・病態」に関する知識を横断して確認する。非対称性難聴の意味を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：伝音難聴を整理する：外耳または中耳
イ：感音難聴を整理する：蝸牛または第VIII脳神経
ウ：非対称性難聴の意味を整理する：中耳炎だけと決める
エ：混合難聴を整理する：伝音系と感音系の両方に障害がある状態

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。外耳道、鼓膜、耳小骨などで音の伝達が阻害される。
イ：この対応は正しい。感音難聴は内耳感覚系または神経系の障害で生じる。
ウ：この対応が誤りである。感音性であるため不適切である。
エ：この対応は正しい。外耳・中耳の伝音障害と、内耳・神経系の障害が併存する。

総合解説：問診、語音聴力、他覚検査、医学的評価を組み合わせる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0021

聴覚障害の基礎 > 聴覚心理・聴覚発達 | 難易度：基礎

問題

「聴覚心理・聴覚発達」の聴覚心理を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：音圧とラウドネスの関係を整理する：必ず音の高さだけが変わる
イ：聴覚閾値を整理する：語音を100％理解できるレベル
ウ：両耳聴の利点を整理する：耳鳴が必ず消える
エ：周波数と音の高さの関係を整理する：高くなる

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。主に大きさに関係する。
イ：この対応は不適切である。語音明瞭度とは別である。
ウ：この対応は不適切である。一律ではない。
エ：この対応は適切である。周波数はpitchの主要な物理的対応量である。

総合解説：知覚上の高さは周波数を主因とするが、音圧などの影響も受ける。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0022

聴覚障害の基礎 > 聴覚心理・聴覚発達 | 難易度：標準

問題

「聴覚心理・聴覚発達」について音圧とラウドネスの関係を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：聴覚閾値を整理する：指定された音を知覚できる最小の音圧レベル
イ：両耳聴の利点を整理する：音源定位や騒音下での聞き取りに有利になる
ウ：音圧とラウドネスの関係を整理する：必ず音源方向が反転する
エ：聴覚発達と早期アクセスを統合できる：言語、コミュニケーション、学習、社会情緒発達の基盤形成に関係するため

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。日本聴覚医学会は聴覚閾値を、指定された音が聴覚を起こし得る最小音圧レベルと定義している。
イ：この対応は正しい。両耳間時間差・レベル差などが空間聴覚に利用される。
ウ：この対応が誤りである。無関係である。
エ：この対応は正しい。幼少期の聴覚・言語アクセスは発達全体に大きく影響する。

総合解説：ラウドネスは音圧レベルと単純一対一ではなく、周波数や聴覚状態にも依存する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0023

聴覚障害の基礎 > 聴覚心理・聴覚発達 | 難易度：基礎

問題

聴覚心理・聴覚発達の学習で聴覚心理を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：聴覚閾値を整理する：指定された音を知覚できる最小の音圧レベル
イ：両耳聴の利点を整理する：耳鳴が必ず消える
ウ：聴覚発達と早期アクセスを統合できる：聴覚は言語発達と無関係だから
エ：聴覚的検出から識別への発達を整理する：視力を測る

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。日本聴覚医学会は聴覚閾値を、指定された音が聴覚を起こし得る最小音圧レベルと定義している。
イ：この対応は不適切である。一律ではない。
ウ：この対応は不適切である。密接に関係する。
エ：この対応は不適切である。聴覚ではない。

総合解説：閾値測定では耳、刺激、提示方法などの測定条件を明確にする。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0024

聴覚障害の基礎 > 聴覚心理・聴覚発達 | 難易度：標準

問題

「聴覚心理・聴覚発達」に関する知識を横断して確認する。両耳聴の利点を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：聴覚発達と早期アクセスを統合できる：言語、コミュニケーション、学習、社会情緒発達の基盤形成に関係するため
イ：聴覚的検出から識別への発達を整理する：異なる音を聞き分けて識別する
ウ：両耳聴の利点を整理する：聴力閾値が必ず正常化する
エ：補充現象の概念を整理する：閾値上昇がある一方、音圧増加に対するラウドネスの増え方が急になる現象

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。幼少期の聴覚・言語アクセスは発達全体に大きく影響する。
イ：この対応は正しい。聴覚スキルは検出から弁別・同定・理解へ発達する。
ウ：この対応が誤りである。難聴を治すわけではない。
エ：この対応は正しい。蝸牛障害では可聴範囲が狭く感じられることがある。

総合解説：一側性難聴では音源定位や騒音下聴取が難しくなることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0025

聴覚障害の基礎 > 聴覚心理・聴覚発達 | 難易度：応用

問題

「聴覚心理・聴覚発達」の発達について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 補充現象の概念を整理する：語音を全て逆再生に感じる現象 / 騒音下聴取の困難を整理する：純音閾値が分かれば全ての会話能力が決まる

イ： 難聴児の聴覚行動を症例から判断できる：聴覚障害の可能性を考え、年齢に適した聴覚評価へつなげる / 聴覚とコミュニケーション発達の関係を整理する：発達評価は成人だけに行う

ウ： 聴覚発達と早期アクセスを統合できる：言語、コミュニケーション、学習、社会情緒発達の基盤形成に関係するため / 聴覚的検出から識別への発達を整理する：異なる音を聞き分けて識別する

エ： 周波数と音の高さの関係を整理する：必ず低くなる / 音圧とラウドネスの関係を整理する：より大きな音として知覚されやすい

0026

聴覚障害の基礎 > 聴覚心理・聴覚発達 | 難易度：標準

問題

「聴覚心理・聴覚発達」について聴覚的検出から識別への発達を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：補充現象の概念を整理する：閾値上昇がある一方、音圧増加に対するラウドネスの増え方が急になる現象

イ：騒音下聴取の困難を整理する：語音と雑音の分離や両耳処理など、閾値以外の聴覚処理が関与するため

ウ：難聴児の聴覚行動を症例から判断できる：聴覚障害の可能性を考え、年齢に適した聴覚評価へつなげる

エ：聴覚的検出から識別への発達を整理する：音刺激を一切使わない

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 補充現象ではない。 実際には一致しないことがある。

イ： は正しいが に誤りがある。 小児でも重要である。

ウ： とも正しい。 幼少期の聴覚・言語アクセスは発達全体に大きく影響する。 聴覚スキルは検出から弁別・同定・理解へ発達する。

エ： に誤りがある。 逆である。 は正しい。

総合解説：早期同定後は聴覚機器、言語・コミュニケーション手段、家族支援を個別化する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。蝸牛障害では可聴範囲が狭く感じられることがある。

イ：この対応は正しい。聴力閾値だけでは実生活の聞こえを完全には予測できない。

ウ：この対応は正しい。音への反応不足は小児難聴の徴候の一つである。

エ：この対応が誤りである。聴覚スキル発達ではない。

総合解説：聴覚訓練では子どもの発達段階に合わせて課題を設定する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0027

聴覚障害の基礎 > 聴覚心理・聴覚発達 | 難易度：基礎

問題

聴覚心理・聴覚発達の学習で聴覚心理を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。ここでは「補充現象・蝸牛性難聴」との関連を手掛かりに整理する。

ア：騒音下聴取の困難を整理する：純音閾値が分かれば全ての会話能力が決まる
イ：補充現象の概念を整理する：閾値上昇がある一方、音圧増加に対するラウドネスの増え方が急になる現象
ウ：難聴児の聴覚行動を症例から判断できる：言葉が出るまで数年待つ
エ：聴覚とコミュニケーション発達の関係を整理する：聴力と発達は完全に独立している

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。実際には一致しないことがある。
イ：この対応は適切である。蝸牛障害では可聴範囲が狭く感じられることがある。
ウ：この対応は不適切である。早期評価が重要である。
エ：この対応は不適切である。関連する。

総合解説：補充現象は補聴器の利得・最大出力調整を考える際にも関係する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0028

聴覚障害の基礎 > 聴覚心理・聴覚発達 | 難易度：標準

問題

「聴覚心理・聴覚発達」に関する知識を横断して確認する。騒音下聴取の困難を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：難聴児の聴覚行動を症例から判断できる：聴覚障害の可能性を考え、年齢に適した聴覚評価へつなげる
イ：聴覚とコミュニケーション発達の関係を整理する：聴覚アクセスの不足が言語・学習・社会的コミュニケーションへ影響し得るため
ウ：騒音下聴取の困難を整理する：片耳だけ使うほど常に聞き取りやすい
エ：周波数と音の高さの関係を整理する：高くなる

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。音への反応不足は小児難聴の徴候の一つである。
イ：この対応は正しい。聴覚状態と発達成果を一緒に追う必要がある。
ウ：この対応が誤りである。両耳聴が有利なことが多い。
エ：この対応は正しい。周波数はpitchの主要な物理的対応量である。

総合解説：成人評価では語音聴力、speech-in-noise、自己評価も重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0029

聴覚障害の基礎 > 聴覚心理・聴覚発達 | 難易度：応用

問題

聴覚心理・聴覚発達の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

- ア： 周波数と音の高さの関係を整理する：音の方向だけが変わる / 音圧とラウドネスの関係を整理する：必ず音源方向が反転する
- イ： 聴覚閾値を整理する：指定された音を知覚できる最小の音圧レベル / 両耳聴の利点を整理する：耳鳴が必ず消える
- ウ： 難聴児の聴覚行動を症例から判断できる：聴覚障害の可能性を考え、年齢に適した聴覚評価へつなげる / 聴覚とコミュニケーション発達の関係を整理する：聴覚アクセスの不足が言語・学習・社会的コミュニケーションへ影響し得るため
- エ： 聴覚発達と早期アクセスを統合できる：聴覚は言語発達と無関係だから / 聴覚的検出から識別への発達を整理する：異なる音を聞き分けて識別する

答え・解説

正答：ウ

- ア： に誤りを含む。 周波数とは別である。 無関係である。
- イ： は正しいが に誤りがある。 一律ではない。
- ウ： とも正しい。 音への反応不足は小児難聴の徴候の一つである。 聴覚状態と発達成果と一緒に追うことが必要である。
- エ： に誤りがある。 密接に関係する。 は正しい。

総合解説：小児では行動観察とOAE・ABRなど年齢に適した検査を組み合わせる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0030

聴覚障害の基礎 > 聴覚心理・聴覚発達 | 難易度：標準

問題

「聴覚心理・聴覚発達」について聴覚とコミュニケーション発達の関係を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：周波数と音の高さの関係を整理する：高くなる
- イ：音圧とラウドネスの関係を整理する：より大きな音として知覚されやすい
- ウ：聴覚とコミュニケーション発達の関係を整理する：聴力が安定していれば言語発達は必ず正常である
- エ：聴覚閾値を整理する：指定された音を知覚できる最小の音圧レベル

答え・解説

正答：ウ

- ア：この対応は正しい。周波数はpitchの主要な物理的対応量である。
- イ：この対応は正しい。物理的強度の増加はloudness増加と関連する。
- ウ：この対応が誤りである。保証されない。
- エ：この対応は正しい。日本聴覚医学会は聴覚閾値を、指定された音が聴覚を起こし得る最小音圧レベルと定義している。

総合解説：補聴機器の使用状況と機能的聴取も含めて継続評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0031

聴覚検査 > 純音聴力検査 | 難易度：基礎

問題

純音聴力検査の学習で検査基礎を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：気導と骨導の違いを整理する：視神経を介する経路
イ：純音聴力検査の目的を整理する：周波数ごとの聴覚閾値を左右耳別に測定する
ウ：聴覚閾値の測定概念を整理する：100％必ず聞こえる最大レベル
エ：気骨導差の意味を整理する：骨導の方が30 dB悪い

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。聴覚ではない。
イ：この対応は適切である。純音聴力検査は聴覚感度を周波数別に把握する行動検査である。
ウ：この対応は不適切である。閾値ではない。
エ：この対応は不適切である。逆である。

総合解説：結果はオーディオグラムに記録し、難聴の程度・型・聴力型を判断する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0032

聴覚検査 > 純音聴力検査 | 難易度：標準

問題

「純音聴力検査」に関する知識を横断して確認する。気導と骨導の違いを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：聴覚閾値の測定概念を整理する：その周波数の音をおおむね50％の確率で検出できる最小レベル
イ：気骨導差の意味を整理する：約30 dBの気骨導差がある
ウ：マスキングの必要性を統合して整理する：必要に応じて非検査耳へマスキングノイズを提示する
エ：気導と骨導の違いを整理する：外耳道だけを刺激する経路

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。ASHAは純音閾値を、その周波数を50％の確率で知覚する最小強度として説明している。
イ：この対応は正しい。気導と骨導の差は伝音成分を示す重要な指標である。
ウ：この対応は正しい。交叉聴取が疑われる場合、非検査耳の関与を抑えて耳別閾値を測定する。
エ：この対応が誤りである。気導刺激に近い。

総合解説：気導と骨導を比較することで伝音成分の有無を判断できる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0033

聴覚検査 > 純音聴力検査 | 難易度：基礎

問題

「純音聴力検査」の閾値を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：気骨導差の意味を整理する：骨導の方が30 dB悪い
イ：マスキングの必要性を統合して整理する：両耳を同時に完全遮音する
ウ：オーディオグラムの軸を整理する：時間
エ：聴覚閾値の測定概念を整理する：その周波数の音をおおむね50％の確率で検出できる最小レベル

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。逆である。
イ：この対応は不適切である。検査耳も聞こえなくなる。
ウ：この対応は不適切である。通常のオーディオグラムの横軸ではない。
エ：この対応は適切である。ASHAは純音閾値を、その周波数を50％の確率で知覚する最小強度として説明している。

総合解説：閾値測定では上昇法・下降法を用いて再現性を確認する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0034

聴覚検査 > 純音聴力検査 | 難易度：標準

問題

「純音聴力検査」について気骨導差の意味を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：気骨導差の意味を整理する：気骨導差は0 dBである
イ：マスキングの必要性を統合して整理する：必要に応じて非検査耳へマスキングノイズを提示する
ウ：オーディオグラムの軸を整理する：周波数
エ：聴力レベルの意味を整理する：標準的な基準聴覚閾値を0 dB HLとして補正した聴力レベル

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。計算が異なる。
イ：この対応は正しい。交叉聴取が疑われる場合、非検査耳の関与を抑えて耳別閾値を測定する。
ウ：この対応は正しい。横軸はHz、縦軸は聴力レベルdB HLで示される。
エ：この対応は正しい。聴力レベルは物理的音圧レベルそのものではなく、周波数ごとの基準値を用いた尺度である。

総合解説：実際の診断では周波数ごとの閾値、マスキング、検査誤差も考慮する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0035

聴覚検査 > 純音聴力検査 | 難易度：応用

問題

純音聴力検査の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 聴力レベルの意味を整理する：0 dB HLは無音を意味する / 環境雑音の影響を整理する：語音理解だけに影響し純音には影響しない

イ： マスキングの必要性を統合して整理する：必要に応じて非検査耳へマスキングノイズを提示する / オージオグラムの軸を整理する：周波数

ウ： 結果不一致から再評価を判断できる：再教示・再検査を行い、必要に応じ他覚的検査を追加して整合性を確認する / 聴力型の臨床の意味を整理する：低周波の振動だけを感じる能力

エ： 純音聴力検査の目的を整理する：中耳圧だけを測る / 気導と骨導の違いを整理する：外耳・中耳を介さず頭蓋骨振動で内耳へ刺激を伝える経路

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 無音ではない。 純音閾値にも影響する。

イ： とも正しい。 交叉聴取が疑われる場合、非検査耳の関与を抑えて耳別閾値を測定する。 横軸はHz、縦軸は聴力レベルdB HLで示される。

ウ： は正しいが に誤りがある。 主な問題ではない。

エ： に誤りがある。 ティンパノメトリである。 は正しい。

総合解説：マスキングは両耳間移行減衰や気骨導差を考慮して適用する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0036

聴覚検査 > 純音聴力検査 | 難易度：標準

問題

「純音聴力検査」に関する知識を横断して確認する。オージオグラムの軸を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：聴力レベルの意味を整理する：標準的な基準聴覚閾値を0 dB HLとして補正した聴力レベル

イ：オージオグラムの軸を整理する：中耳圧

ウ：環境雑音の影響を整理する：特に低周波などで閾値が実際より悪く測定される可能性がある

エ：結果不一致から再評価を判断できる：再教示・再検査を行い、必要に応じ他覚的検査を追加して整合性を確認する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。聴力レベルは物理的音圧レベルそのものではなく、周波数ごとの基準値を用いた尺度である。

イ：この対応が誤りである。ティンパノグラムの横軸である。

ウ：この対応は正しい。環境雑音が検査音をマスクし、閾値測定を妨げる。

エ：この対応は正しい。検査結果は単独ではなく複数検査間の整合性をみる。

総合解説：高周波は通常右側、低周波は左側に配置される。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0037

聴覚検査 > 純音聴力検査 | 難易度：基礎

問題

「純音聴力検査」のdB HLを確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：聴力レベルの意味を整理する：標準的な基準聴覚閾値を0 dB HLとして補正した聴力レベル
イ：環境雑音の影響を整理する：語音理解だけに影響し純音には影響しない
ウ：結果不一致から再評価を判断できる：必ず詐聴と断定する
エ：聴力型の臨床的意味を整理する：視覚的文字認識

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。聴力レベルは物理的音圧レベルそのものではなく、周波数ごとの基準値を用いた尺度である。
イ：この対応は不適切である。純音閾値にも影響する。
ウ：この対応は不適切である。他要因を除外せず断定できない。
エ：この対応は不適切である。聴力型とは直接関係しない。

総合解説：日本聴覚医学会の用語定義も標準聴覚閾値との差として聴力レベルを定義している。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0038

聴覚検査 > 純音聴力検査 | 難易度：標準

問題

「純音聴力検査」について環境雑音の影響を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：結果不一致から再評価を判断できる：再教示・再検査を行い、必要に応じ他覚的検査を追加して整合性を確認する
イ：聴力型の臨床的意味を整理する：子音の識別や騒音下での語音理解
ウ：純音聴力検査の目的を整理する：周波数ごとの聴覚閾値を左右耳別に測定する
エ：環境雑音の影響を整理する：骨導だけが必ず改善する

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。検査結果は単独ではなく複数検査間の整合性をみる。
イ：この対応は正しい。高周波成分には多くの子音識別手掛かりが含まれる。
ウ：この対応は正しい。純音聴力検査は聴覚感度を周波数別に把握する行動検査である。
エ：この対応が誤りである。そうではない。

総合解説：信頼できる検査には適切な防音環境と機器校正が必要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0039

聴覚検査 > 純音聴力検査 | 難易度：応用

問題

「純音聴力検査」について結果不一致から再評価を判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 結果不一致から再評価を判断できる：再教示・再検査を行い、必要に応じ他覚的検査を追加して整合性を確認する / 聴力型の臨床的意味を整理する：子音の識別や騒音下での語音理解

イ： 純音聴力検査の目的を整理する：脳幹電位だけを記録する / 気導と骨導の違いを整理する：外耳道だけを刺激する経路

ウ： 聴覚閾値の測定概念を整理する：その周波数の音をおおむね50%の確率で検出できる最小レベル / 気骨導差の意味を整理する：骨導の方が30 dB悪い

エ： マスキングの必要性を統合して整理する：両耳を同時に完全遮音する / オージオグラムの軸を整理する：周波数

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 検査結果は単独ではなく複数検査間の整合性をみる。 高周波成分には多くの子音識別手掛かりが含まれる。

イ： に誤りを含む。 ABRである。 気導刺激に近い。

ウ： は正しいが に誤りがある。 逆である。

エ： に誤りがある。 検査耳も聞こえなくなる。 は正しい。

総合解説：聴覚評価ではcross-check principleに沿って結果の妥当性を確認する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0040

聴覚検査 > 純音聴力検査 | 難易度：標準

問題

「純音聴力検査」に関する知識を横断して確認する。聴力型の臨床的意味を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：聴力型の臨床的意味を整理する：嗅覚識別

イ：純音聴力検査の目的を整理する：周波数ごとの聴覚閾値を左右耳別に測定する

ウ：気導と骨導の違いを整理する：外耳・中耳を介さず頭蓋骨振動で内耳へ刺激を伝える経路

エ：聴覚閾値の測定概念を整理する：その周波数の音をおおむね50%の確率で検出できる最小レベル

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。無関係である。

イ：この対応は正しい。純音聴力検査は聴覚感度を周波数別に把握する行動検査である。

ウ：この対応は正しい。骨導は伝音系を迂回して蝸牛を刺激する。

エ：この対応は正しい。ASHAは純音閾値を、その周波数を50%の確率で知覚する最小強度として説明している。

総合解説：聴力型は補聴器の利得設定やコミュニケーション評価にも関係する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0041

聴覚検査 > 語音聴力検査 | 難易度：基礎

問題

「語音聴力検査」の語音検査を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：SRTを整理する：不快に感じる語音レベル
イ：語音聴力検査の目的を整理する：語音をどの程度検出・認識できるかを評価する
ウ：SDTを整理する：語音を100%正答する
エ：語音明瞭度の意味を整理する：蝸牛外有毛細胞反応だけ

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。不快閾値である。
イ：この対応は適切である。純音閾値とは別に、実際の言語音への聴取能力をみる。
ウ：この対応は不適切である。閾値検査ではない。
エ：この対応は不適切である。OAEである。

総合解説：語音検査にはSDT、SRT、語音明瞭度、speech-in-noiseなどがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0042

聴覚検査 > 語音聴力検査 | 難易度：標準

問題

「語音聴力検査」についてSRTを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：SDTを整理する：語音が聞こえたことを検出する
イ：語音明瞭度の意味を整理する：十分な提示レベルで語音を正しく識別できる割合
ウ：SRTと純音平均の整合性を判断できる：検査理解・反応信頼性・語音材料・他の病態を含めて再評価する
エ：SRTを整理する：語音を存在として検出するだけの閾値

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。SDTでは内容を正しく識別する必要はない。
イ：この対応は正しい。語音明瞭度は聴覚的な語音認識能力を百分率などで表す。
ウ：この対応は正しい。通常SRTは純音平均と概ね整合するため、大きな不一致は再確認が必要である。
エ：この対応が誤りである。SDTに近い。

総合解説：SRTは純音平均聴力レベルとの整合性確認にも用いられる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0043

聴覚検査 > 語音聴力検査 | 難易度：基礎

問題
語音聴力検査の学習で語音閾値を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

- ア：語音明瞭度の意味を整理する：蝸牛外有毛細胞反応だけ
- イ：SRTと純音平均の整合性を判断できる：SRTだけを採用し純音結果を捨てる
- ウ：speech-in-noise検査を整理する：発話速度だけを測る
- エ：SDTを整理する：語音が聞こえたことを検出する

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は不適切である。OAEである。
- イ：この対応は不適切である。両方を再評価する。
- ウ：この対応は不適切である。語音理解そのものではない。
- エ：この対応は適切である。SDTでは内容を正しく識別する必要はない。

総合解説：言語能力や発話能力が低くSRTが難しい場合にSDTが有用なことがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0044

聴覚検査 > 語音聴力検査 | 難易度：標準

問題
「語音聴力検査」に関する知識を横断して確認する。語音明瞭度の意味を理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：SRTと純音平均の整合性を判断できる：検査理解・反応信頼性・語音材料・他の病態を含めて再評価する
- イ：語音明瞭度の意味を整理する：最小可聴閾値だけ
- ウ：speech-in-noise検査を整理する：雑音下での語音理解能力を評価し、実生活の困難を捉えやすくする
- エ：語音明瞭度と後迷路性病変を整理する：後迷路性病変を含む神経性要因

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は正しい。通常SRTは純音平均と概ね整合するため、大きな不一致は再確認が必要である。
- イ：この対応が誤りである。純音閾値である。
- ウ：この対応は正しい。静かな検査室での明瞭度だけでは騒音下の聞き取りを予測しにくい。
- エ：この対応は正しい。聴神経・中枢側の障害では純音閾値から予想される以上に語音認識が悪いことがある。

総合解説：明瞭度は補聴効果予測や後迷路性病変の評価にも参考になる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0045

聴覚検査 > 語音聴力検査 | 難易度：応用

問題
「語音聴力検査」についてSRTと純音平均の整合性を判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

- ア： SRTと純音平均の整合性を判断できる：検査理解・反応信頼性・語音材料・他の病態を含めて再評価する / speech-in-noise検査を整理する：雑音下での語音理解能力を評価し、実生活の困難を捉えやすくする
イ： 語音明瞭度と後迷路性病変を整理する：外耳道閉塞だけ / 語音提示レベルを整理する：周波数ごとの骨導閾値を測るため
ウ： 語音検査の症例からリハ評価へつなげる：補聴条件を含むspeech-in-noise評価 / 語音聴力レベルの基準概念を整理する：物理的音圧レベルと常に同じである
エ： 語音聴力検査の目的を整理する：聴神経電位だけを測る / SRTを整理する：語音材料を約50％正しく認識できる最小の語音レベル

答え・解説

正答：ア

- ア： とも正しい。 通常SRTは純音平均と概ね整合するため、大きな不一致は再確認が必要である。 静かな検査室での明瞭度だけでは騒音下の聞き取りを予測しにくい。
イ： に誤りを含む。 伝音障害では適切なレベルなら語音明瞭度は比較的保たれることが多い。 純音検査である。
ウ： は正しいが に誤りがある。 基準補正を含む。
エ： に誤りがある。 ABRである。 は正しい。

総合解説：聴覚評価では検査間の整合性を利用して結果の妥当性を確認する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0046

聴覚検査 > 語音聴力検査 | 難易度：標準

問題
「語音聴力検査」についてspeech-in-noise検査を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：speech-in-noise検査を整理する：蝸牛電位だけを測る
イ：語音明瞭度と後迷路性病変を整理する：後迷路性病変を含む神経性要因
ウ：語音提示レベルを整理する：提示レベルによる明瞭度の変化をみて最高明瞭度や性能強度関数を把握するため
エ：語音検査の症例からリハ評価へつなげる：補聴条件を含むspeech-in-noise評価

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応が誤りである。他覚的検査である。
イ：この対応は正しい。聴神経・中枢側の障害では純音閾値から予想される以上に語音認識が悪いことがある。
ウ：この対応は正しい。一つのレベルだけでは最大能力を捉えられない場合がある。
エ：この対応は正しい。騒音下での困難を直接測ることで補聴・方略調整に役立つ。

総合解説：補聴器やコミュニケーション方略の効果評価にも利用できる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0047

聴覚検査 > 語音聴力検査 | 難易度：基礎

問題

語音聴力検査の学習で病巣推定を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：語音提示レベルを整理する：周波数ごとの骨導閾値を測るため
イ：語音検査の症例からリハ評価へつなげる：耳介の長さを測る
ウ：語音聴力レベルの基準概念を整理する：音源定位の角度を示す
エ：語音明瞭度と後迷路性病変を整理する：後迷路性病変を含む神経性要因

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。純音検査である。
イ：この対応は不適切である。無関係である。
ウ：この対応は不適切である。無関係である。
エ：この対応は適切である。聴神経・中枢側の障害では純音閾値から予想される以上に語音認識が悪いことがある。

総合解説：語音成績だけで病巣を確定せず、ABRや画像等と統合する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0048

聴覚検査 > 語音聴力検査 | 難易度：標準

問題

「語音聴力検査」に関する知識を横断して確認する。語音提示レベルを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：語音検査の症例からリハ評価へつなげる：補聴条件を含むspeech-in-noise評価
イ：語音聴力レベルの基準概念を整理する：特定の語音信号・提示方法について基準語音了解閾値を基に表されるレベルである
ウ：語音提示レベルを整理する：中耳圧を変えるため
エ：語音聴力検査の目的を整理する：語音をどの程度検出・認識できるかを評価する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。騒音下での困難を直接測ることで補聴・方略調整に役立つ。
イ：この対応は正しい。日本聴覚医学会では語音信号のレベルから基準語音了解閾値レベルを差し引いた値と定義する。
ウ：この対応が誤りである。ティンパノメトリである。
エ：この対応は正しい。純音閾値とは別に、実際の言語音への聴取能力をみる。

総合解説：特に非対称性難聴や後迷路性評価では提示レベルと明瞭度の関係が重要になる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0049

聴覚検査 > 語音聴力検査 | 難易度：応用

問題

「語音聴力検査」の症例について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 語音検査の症例からリハ評価へつなげる：補聴条件を含むspeech-in-noise評価 / 語音聴力レベルの基準概念を整理する：特定の語音信号・提示方法について基準語音了解閾値を基に表されるレベルである

イ： 語音聴力検査の目的を整理する：中耳圧だけを測る / SRTを整理する：語音を存在として検出するだけの閾値

ウ： SDTを整理する：語音が聞こえたことを検出する / 語音明瞭度の意味を整理する：蝸牛外有毛細胞反応だけ

エ： SRTと純音平均の整合性を判断できる：SRTだけを採りし純音結果を捨てる / speech-in-noise検査を整理する：雑音下での語音理解能力を評価し、実生活の困難を捉えやすくする

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 騒音下での困難を直接測ることで補聴・方略調整に役立つ。 日本聴覚医学会では語音信号のレベルから基準語音了解閾値レベルを差し引いた値と定義する。

イ： に誤りを含む。 ティンバノメトリである。 SDTに近い。

ウ： は正しいが に誤りがある。 OAEである。

エ： に誤りがある。 両方を再評価する。 は正しい。

総合解説：成人リハでは語音成績と自己報告の両方から効果を確認する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0050

聴覚検査 > 語音聴力検査 | 難易度：標準

問題

「語音聴力検査」について語音聴力レベルの基準概念を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：語音聴力検査の目的を整理する：語音をどの程度検出・認識できるかを評価する

イ：SRTを整理する：語音材料を約50％正しく認識できる最小の語音レベル

ウ：語音聴力レベルの基準概念を整理する：純音の骨導閾値だけを意味する

エ：SDTを整理する：語音が聞こえたことを検出する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。純音閾値とは別に、実際の言語音への聴取能力をみる。

イ：この対応は正しい。SRTは通常、親密な二音節語などを用いて測定する。

ウ：この対応が誤りである。語音レベルである。

エ：この対応は正しい。SDTでは内容を正しく識別する必要はない。

総合解説：語音検査では使用語表・提示方法・レベル表示を明確にする必要がある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0051

聴覚検査 > インピーダンス・他覚的検査 | 難易度：基礎

問題

インピーダンス・他覚的検査の学習でインピーダンスを行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：Type Aティンパノグラムを整理する：平坦でピークがない
イ：Type Bの意味を整理する：必ず内耳障害だけを示す
ウ：ティンパノメトリの目的を整理する：外耳道圧を変化させたときの中耳系の可動性
エ：Type Cの意味を整理する：正常中耳圧のみ

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。Type Bに近い。
イ：この対応は不適切である。中耳系の検査である。
ウ：この対応は適切である。鼓膜・中耳系のコンプライアンスを圧変化に対して測定する。
エ：この対応は不適切である。Type Aに近い。

総合解説：中耳炎、耳管機能異常、鼓膜穿孔、耳硬化症などの鑑別に役立つ。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0052

聴覚検査 > インピーダンス・他覚的検査 | 難易度：標準

問題

「インピーダンス・他覚的検査」に関する知識を横断して確認する。Type Aティンパノグラムを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：Type Bの意味を整理する：明瞭なピークを欠く平坦な波形
イ：Type Aティンパノグラムを整理する：必ず感音難聴を意味する
ウ：Type Cの意味を整理する：中耳腔の陰圧
エ：OAEの原理を統合して整理する：OAE

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。中耳貯留液や鼓膜穿孔などでみられることがある。
イ：この対応が誤りである。中耳機能所見であり感音難聴の有無を直接決めない。
ウ：この対応は正しい。ピークが陰圧側へ偏位し、耳管機能不全などでみられる。
エ：この対応は正しい。OAEは蝸牛から生じる音響反応を外耳道で測定し、行動反応を必要としない。

総合解説：Type AでもAsやAdなどピーク高の変化で中耳病変を示すことがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0053

聴覚検査 > インピーダンス・他覚的検査 | 難易度：基礎

問題

「インピーダンス・他覚的検査」のティンパノグラムを確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：Type Cの意味を整理する：正常中耳圧のみ
イ：Type Bの意味を整理する：明瞭なピークを欠く平坦な波形
ウ：OAEの原理を統合して整理する：語音明瞭度検査
エ：OAE消失の解釈を整理する：必ず重度感音難聴である

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。Type Aに近い。
イ：この対応は適切である。中耳貯留液や鼓膜穿孔などでみられることがある。
ウ：この対応は不適切である。言語反応が必要である。
エ：この対応は不適切である。中耳病変でも消失する。

総合解説：外耳道容積を併せてみると貯留液と鼓膜穿孔の鑑別に役立つ。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0054

聴覚検査 > インピーダンス・他覚的検査 | 難易度：標準

問題

「インピーダンス・他覚的検査」についてType Cの意味を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：OAEの原理を統合して整理する：OAE
イ：OAE消失の解釈を整理する：蝸牛機能低下だけでなく、外耳・中耳の伝音障害でも消失し得る
ウ：ABRの発生源を整理する：聴神経と脳幹部の聴覚路
エ：Type Cの意味を整理する：必ず鼓膜穿孔

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。OAEは蝸牛から生じる音響反応を外耳道で測定し、行動反応を必要としない。
イ：この対応は正しい。OAEは外耳・中耳を往復して測定されるため伝音系の影響を受ける。
ウ：この対応は正しい。日本聴覚医学会ではABRのピークは主に聴神経・脳幹聴覚路に起源を持つとする。
エ：この対応が誤りである。Type Bと外耳道容積の組合せで考える。

総合解説：風邪やアレルギー、滲出性中耳炎などで陰圧になることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0055

聴覚検査 > インピーダンス・他覚的検査 | 難易度：応用

問題

「インピーダンス・他覚的検査」のOAEについて、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： OAEの原理を統合して整理する：OAE / OAE消失の解釈を整理する：蝸牛機能低下だけでなく、外耳・中耳の伝音障害でも消失し得る

イ： ABRの発生源を整理する：視神経と網膜 / ABRの臨床用途を整理する：耳垢量だけを測る

ウ： 検査結果の不一致を症例から判断できる：聴覚ニューロパチー・スペクトラムを含む神経伝達異常 / AABRの用途を整理する：成人の語音明瞭度測定

エ： ティンパノメトリの目的を整理する：語音理解能力 / Type Aティンパノグラムを整理する：大気圧付近にピークを持つ正常に近い中耳圧・可動性

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 OAEは蝸牛から生じる音響反応を外耳道で測定し、行動反応を必要としない。 OAEは外耳・中耳を往復して測定されるため伝音系の影響を受ける。

イ： に誤りを含む。 視覚系である。 耳鏡で確認する。

ウ： は正しいが に誤りがある。 用途が異なる。

エ： に誤りがある。 語音検査である。 は正しい。

総合解説：OAEは外・中耳の状態にも影響されるため、結果は他検査と統合する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0056

聴覚検査 > インピーダンス・他覚的検査 | 難易度：標準

問題

「インピーダンス・他覚的検査」に関する知識を横断して確認する。OAE消失の解釈を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：ABRの発生源を整理する：聴神経と脳幹部の聴覚路

イ：OAE消失の解釈を整理する：必ず聴神経腫瘍を意味する

ウ：ABRの臨床用途を整理する：行動検査が難しい場合の閾値推定や、後迷路性病変の鑑別補助

エ：検査結果の不一致を症例から判断できる：聴覚ニューロパチー・スペクトラムを含む神経伝達異常

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。日本聴覚医学会ではABRのピークは主に聴神経・脳幹聴覚路に起源を持つとする。

イ：この対応が誤りである。特異的ではない。

ウ：この対応は正しい。ABRは客観的に聴神経・脳幹反応を記録できる。

エ：この対応は正しい。外有毛細胞機能が保たれていても聴神経同期性が障害される病態がある。

総合解説：耳鏡、ティンパノメトリ、ABR、行動検査と合わせて解釈する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0057

聴覚検査 > インピーダンス・他覚的検査 | 難易度：基礎

問題

「インピーダンス・他覚的検査」のABRを確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：ABRの臨床用途を整理する：耳垢量だけを測る
イ：ABRの発生源を整理する：聴神経と脳幹部の聴覚路
ウ：検査結果の不一致を症例から判断できる：正常聴覚と断定する
エ：AABRの用途を整理する：中耳圧測定

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。耳鏡で確認する。
イ：この対応は適切である。日本聴覚医学会ではABRのピークは主に聴神経・脳幹聴覚路に起源を持つとする。
ウ：この対応は不適切である。ABRと行動反応が異常である。
エ：この対応は不適切である。ティンパノメトリである。

総合解説：ABRは通常10 ms以内に現れる複数の波を解析する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0058

聴覚検査 > インピーダンス・他覚的検査 | 難易度：標準

問題

「インピーダンス・他覚的検査」についてABRの臨床用途を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：検査結果の不一致を症例から判断できる：聴覚ニューロパチー・スペクトラムを含む神経伝達異常
イ：ABRの臨床用途を整理する：中耳圧だけを測る
ウ：AABRの用途を整理する：新生児聴覚スクリーニング
エ：ティンパノメトリの目的を整理する：外耳道圧を変化させたときの中耳系の可動性

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。外有毛細胞機能が保たれていても聴神経同期性が障害される病態がある。
イ：この対応が誤りである。ティンパノメトリである。
ウ：この対応は正しい。AABRはABR波形を自動解析し、pass/referとして判定する。
エ：この対応は正しい。鼓膜・中耳系のコンプライアンスを圧変化に対して測定する。

総合解説：潜時・波間潜時・振幅などを病態に応じて評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0059

聴覚検査 > インピーダンス・他覚的検査 | 難易度：応用

問題

インピーダンス・他覚的検査の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 検査結果の不一致を症例から判断できる：聴覚ニューロパシー・スペクトラムを含む神経伝達異常 / AABRの用途を整理する：新生児聴覚スクリーニング

イ： ティンパノメトリの目的を整理する：聴覚皮質活動だけ / Type Aティンパノグラムを整理する：必ず感音難聴を意味する

ウ： Type Bの意味を整理する：明瞭なピークを欠く平坦な波形 / Type Cの意味を整理する：正常中耳圧のみ

エ： OAEの原理を統合して整理する：語音明瞭度検査 / OAE消失の解釈を整理する：蝸牛機能低下だけでなく、外耳・中耳の伝音障害でも消失し得る

0060

聴覚検査 > インピーダンス・他覚的検査 | 難易度：標準

問題

「インピーダンス・他覚的検査」に関する知識を横断して確認する。AABRの用途を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：ティンパノメトリの目的を整理する：外耳道圧を変化させたときの中耳系の可動性

イ：Type Aティンパノグラムを整理する：大気圧付近にピークを持つ正常に近い中耳圧・可動性

ウ：AABRの用途を整理する：補聴器の利得測定

エ：Type Bの意味を整理する：明瞭なピークを欠く平坦な波形

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 外有毛細胞機能が保たれていても聴神経同期性が障害される病態がある。 AABRはABR波形を自動解析し、pass/referとして判定する。

イ： に誤りを含む。 中枢検査である。 中耳機能所見であり感音難聴の有無を直接決めない。

ウ： は正しいが に誤りがある。 Type Aに近い。

エ： に誤りがある。 言語反応が必要である。 は正しい。

総合解説：他覚検査同士の不一致は病態推定に重要で、行動検査と合わせて診断する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。鼓膜・中耳系のコンプライアンスを圧変化に対して測定する。

イ：この対応は正しい。Type Aは通常、正常な中耳機能を示す。

ウ：この対応が誤りである。実耳測定等で行う。

エ：この対応は正しい。中耳貯留液や鼓膜穿孔などでみられることがある。

総合解説：referは難聴確定ではなく、精密聴覚検査へつなぐ判定である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0061

成人聴覚障害 > 成人難聴の評価・病態 | 難易度：基礎

問題

「成人難聴の評価・病態」の問診を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：耳鏡検査の役割を整理する：聴神経電位を記録するため
イ：成人難聴の問診項目を整理する：発症時期、左右差、騒音曝露、耳鳴、めまい、薬剤、既往歴
ウ：加齢性難聴の一般像を整理する：通常は一晚で片耳だけ完全聾になる
エ：騒音曝露歴を評価する意義を整理する：騒音は伝音難聴しか起こさないため

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。ABRである。
イ：この対応は適切である。病歴は難聴の原因と緊急性を判断する基礎になる。
ウ：この対応は不適切である。典型的ではない。
エ：この対応は不適切である。主に感音障害を起こす。

総合解説：急性発症、片側性、進行性、耳症状などは医学的評価の必要性判断に重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0062

成人聴覚障害 > 成人難聴の評価・病態 | 難易度：標準

問題

「成人難聴の評価・病態」について耳鏡検査の役割を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：加齢性難聴の一般像を整理する：両側性に徐々に進行し、高周波数帯で目立つことが多い
イ：騒音曝露歴を評価する意義を整理する：長期間または強大な騒音が内耳障害の原因となり得るため
ウ：非対称性難聴を統合評価できる：後迷路性病変を含め精査を検討し、ABRや医学的評価へつなげる
エ：耳鏡検査の役割を整理する：補聴器利得を決定するだけのため

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。加齢に伴う内耳・神経路等の変化が複合して生じる。
イ：この対応は正しい。騒音性難聴は予防可能な感音難聴の重要な原因である。
ウ：この対応は正しい。非対称性難聴や不釣り合いな語音低下は神経性病変の手掛かりとなる。
エ：この対応が誤りである。目的はより広い。

総合解説：耳鏡所見に異常があれば耳鼻咽喉科への紹介を検討する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0063

成人聴覚障害 > 成人難聴の評価・病態 | 難易度：基礎

問題

成人難聴の評価・病態の学習で病態を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：加齢性難聴の一般像を整理する：両側性に徐々に進行し、高周波数帯で目立つことが多い
イ：騒音曝露歴を評価する意義を整理する：騒音は伝音難聴しか起こさないため
ウ：非対称性難聴を統合評価できる：語音検査結果を無視する
エ：難聴と薬剤の関係を整理する：全ての薬剤が必ず難聴を起こすため

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。加齢に伴う内耳・神経路等の変化が複合して生じる。
イ：この対応は不適切である。主に感音障害を起こす。
ウ：この対応は不適切である。重要な病巣情報である。
エ：この対応は不適切である。一律ではない。

総合解説：騒音曝露、遺伝、全身疾患、薬剤などが個人差に関与する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0064

成人聴覚障害 > 成人難聴の評価・病態 | 難易度：標準

問題

「成人難聴の評価・病態」に関する知識を横断して確認する。騒音曝露歴を評価する意義を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：非対称性難聴を統合評価できる：後迷路性病変を含め精査を検討し、ABRや医学的評価へつなげる
イ：難聴と薬剤の関係を整理する：一部の薬剤は耳毒性により内耳機能へ影響することがあるため
ウ：騒音曝露歴を評価する意義を整理する：騒音曝露歴だけで聴力を測らなくてよいから
エ：難聴の程度だけで困難を決めないことを整理する：語音理解、騒音環境、認知、生活場面、コミュニケーション要求などが異なるため

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。非対称性難聴や不釣り合いな語音低下は神経性病変の手掛かりとなる。
イ：この対応は正しい。抗がん薬など一部薬剤は聴覚障害のリスクとなる。
ウ：この対応が誤りである。聴力検査も必要である。
エ：この対応は正しい。聴力閾値だけでは活動・参加上の障害を完全に表せない。

総合解説：曝露強度、時間、距離、防音保護具の使用などを確認する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0065

成人聴覚障害 > 成人難聴の評価・病態 | 難易度：応用

問題

成人難聴の評価・病態の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 難聴の程度だけで困難を決めないことを整理する：補聴器使用経験は関係しない / 急速進行する難聴の扱いを整理する：補聴器購入だけで様子を見る

イ： 騒音性難聴の予防を症例から判断できる：騒音曝露を減らし、適切な聴覚保護具を使用し、定期的に聴力をモニタリングする / 成人難聴評価のtest batteryを整理する：自己評価だけで難聴型を決める

ウ： 非対称性難聴を統合評価できる：後迷路性病変を含め精査を検討し、ABRや医学的評価へつなげる / 難聴と薬剤の関係を整理する：一部の薬剤は耳毒性により内耳機能へ影響することがあるため

エ： 成人難聴の問診項目を整理する：利き手だけ / 耳鏡検査の役割を整理する：外耳道閉塞、耳垢、鼓膜異常などを確認するため

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 支援効果や自己効力感に關係する。 原因評価が必要である。

イ： は正しいが に誤りがある。 聴覚検査が必要である。

ウ： とともに正しい。 非対称性難聴や不釣り合いな語音低下は神経性病変の手掛かりとなる。 抗がん薬など一部薬剤は聴覚障害のリスクとなる。

エ： に誤りがある。 難聴原因の基本問診ではない。 は正しい。

総合解説：成人難聴は純音、語音、中耳、OAE、ABR、病歴を組み合わせで評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0066

成人聴覚障害 > 成人難聴の評価・病態 | 難易度：標準

問題

「成人難聴の評価・病態」について難聴と薬剤の関係を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：難聴の程度だけで困難を決めないことを整理する：語音理解、騒音環境、認知、生活場面、コミュニケーション要求などが異なるため

イ：急速進行する難聴の扱いを整理する：速やかに耳鼻咽喉科で医学的評価を受けるよう勧める

ウ：騒音性難聴の予防を症例から判断できる：騒音曝露を減らし、適切な聴覚保護具を使用し、定期的に聴力をモニタリングする

エ：難聴と薬剤の関係を整理する：薬剤名だけで難聴型が完全に確定するため

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。聴力閾値だけでは活動・参加上の障害を完全に表せない。

イ：この対応は正しい。急性・急速進行の難聴は早期治療が重要な場合がある。

ウ：この対応は正しい。騒音性難聴は音圧、時間、距離に依存し、予防が重要である。

エ：この対応が誤りである。検査が必要である。

総合解説：耳毒性リスクがある場合、高周波聴力やOAE等のモニタリングを検討する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0067

成人聴覚障害 > 成人難聴の評価・病態 | 難易度：基礎

問題

成人難聴の評価・病態の学習で機能評価を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：急速進行する難聴の扱いを整理する：補聴器購入だけで様子を見る
イ：騒音性難聴の予防を症例から判断できる：耳鳴が出るまで検査しない
ウ：成人難聴評価のtest batteryを整理する：ABRだけで日常の困難を評価する
エ：難聴の程度だけで困難を決めないことを整理する：語音理解、騒音環境、認知、生活場面、コミュニケーション要求などが異なるため

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。原因評価が必要である。
イ：この対応は不適切である。予防的モニタリングが重要である。
ウ：この対応は不適切である。機能面を捉えにくい。
エ：この対応は適切である。聴力閾値だけでは活動・参加上の障害を完全に表せない。

総合解説：成人評価では自己報告とコミュニケーションニーズを含める。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0068

成人聴覚障害 > 成人難聴の評価・病態 | 難易度：標準

問題

「成人難聴の評価・病態」に関する知識を横断して確認する。急速進行する難聴の扱いを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：騒音性難聴の予防を症例から判断できる：騒音曝露を減らし、適切な聴覚保護具を使用し、定期的に聴力をモニタリングする
イ：成人難聴評価のtest batteryを整理する：問診、耳鏡、純音、語音、中耳機能、必要に応じOAE・ABR・自己評価を組み合わせる
ウ：急速進行する難聴の扱いを整理する：数か月待ってから検査する
エ：成人難聴の問診項目を整理する：発症時期、左右差、騒音曝露、耳鳴、めまい、薬剤、既往歴

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。騒音性難聴は音圧、時間、距離に依存し、予防が重要である。
イ：この対応は正しい。成人難聴の診断は単一検査ではなくtest batteryで行う。
ウ：この対応が誤りである。治療機会を逃す可能性がある。
エ：この対応は正しい。病歴は難聴の原因と緊急性を判断する基礎になる。

総合解説：発症時期は成人聴覚問診で最重要事項の一つである。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0069

成人聴覚障害 > 成人難聴の評価・病態 | 難易度：応用

問題
「成人難聴の評価・病態」について騒音性難聴の予防を症例から判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

- ア： 成人難聴の問診項目を整理する：身長だけ / 耳鏡検査の役割を整理する：補聴器利得を決定するだけのため
- イ： 加齢性難聴の一般像を整理する：両側性に徐々に進行し、高周波数帯で目立つことが多い / 騒音曝露歴を評価する意義を整理する：騒音は伝音難聴しか起こさないため
- ウ： 騒音性難聴の予防を症例から判断できる：騒音曝露を減らし、適切な聴覚保護具を使用し、定期的に聴力をモニタリングする / 成人難聴評価のtest batteryを整理する：問診、耳鏡、純音、語音、中耳機能、必要に応じOAE・ABR・自己評価を組み合わせる
- エ： 非対称性難聴を統合評価できる：語音検査結果を無視する / 難聴と薬剤の関係を整理する：一部の薬剤は耳毒性により内耳機能へ影響することがあるため

答え・解説

正答：ウ

- ア： に誤りを含む。 聴覚病態の推定には不十分である。 目的はより広い。
- イ： は正しいが に誤りがある。 主に感音障害を起こす。
- ウ： とともに正しい。 騒音性難聴は音圧、時間、距離に依存し、予防が重要である。 成人難聴の診断は単一検査ではなくtest batteryで行う。
- エ： に誤りがある。 重要な病巣情報である。 は正しい。

総合解説：騒音性難聴では環境対策、個人防護、教育、聴力管理を組み合わせる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0070

成人聴覚障害 > 成人難聴の評価・病態 | 難易度：標準

問題
「成人難聴の評価・病態」について成人難聴評価のtest batteryを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：成人難聴評価のtest batteryを整理する：純音検査1つだけで全て確定する
- イ：成人難聴の問診項目を整理する：発症時期、左右差、騒音曝露、耳鳴、めまい、薬剤、既往歴
- ウ：耳鏡検査の役割を整理する：外耳道閉塞、耳垢、鼓膜異常などを確認するため
- エ：加齢性難聴の一般像を整理する：両側性に徐々に進行し、高周波数帯で目立つことが多い

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応が誤りである。病態や生活影響を十分に評価できない。
- イ：この対応は正しい。病歴は難聴の原因と緊急性を判断する基礎になる。
- ウ：この対応は正しい。外耳・鼓膜所見は検査方法や医学的紹介の判断に影響する。
- エ：この対応は正しい。加齢に伴う内耳・神経路等の変化が複合して生じる。

総合解説：検査は病歴と臨床疑問に合わせて選択する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0071

成人聴覚障害 > コミュニケーション評価 | 難易度：基礎

問題

コミュニケーション評価の学習で機能評価を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：自己評価尺度の意義を整理する：中耳圧を評価できる
イ：コミュニケーションパートナー評価を整理する：聴力検査を省略するため
ウ：コミュニケーション評価の目的を整理する：聞こえの問題が家庭・仕事・社会参加へどう影響しているかを把握する
エ：騒音下の聞こえを評価する：中耳圧だけを測る

答え・解説

正答：ウ

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0072

成人聴覚障害 > コミュニケーション評価 | 難易度：標準

問題

「コミュニケーション評価」に関する知識を横断して確認する。自己評価尺度の意義を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：コミュニケーションパートナー評価を整理する：本人が気づきにくい聞き返しや会話場面の困難、家族側の負担を把握できる
イ：騒音下の聞こえを評価する：speech-in-noise検査と実生活場面の聞き取り評価
ウ：聴力と参加の不一致を統合できる：聴力の程度だけで軽症とせず、職業上の聴取要求と参加制限を評価する
エ：自己評価尺度の意義を整理する：語音明瞭度を物理的に測定できる

答え・解説

正答：エ

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。ティンパノメトリである。
イ：この対応は不適切である。補完情報である。
ウ：この対応は適切である。聴力閾値だけでなく活動・参加上の困難を評価する。
エ：この対応は不適切である。実生活の語音理解を評価しない。

総合解説：自己評価尺度や具体的な聞き取り場面の聴取が有用である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0073

成人聴覚障害 > コミュニケーション評価 | 難易度：基礎

問題

「コミュニケーション評価」の家族支援を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：騒音下の聞こえを評価する：中耳圧だけを測る
イ：聴力と参加の不一致を統合できる：仕事を変えるよう先に勧める
ウ：コミュニケーションパートナー評価を整理する：本人が気づきにくい聞き返しや会話場面の困難、家族側の負担を把握できる
エ：会話方略評価を整理する：聞き取れなくても推測だけで進めることを勧める

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。実生活の語音理解を評価しない。
イ：この対応は不適切である。まず支援可能性を評価する。
ウ：この対応は適切である。難聴は本人だけでなく会話相手にも影響する。
エ：この対応は不適切である。誤解が増える。

総合解説：成人聴覚リハでは第三者への影響も評価対象となる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0074

成人聴覚障害 > コミュニケーション評価 | 難易度：標準

問題

「コミュニケーション評価」について騒音下の聞こえを評価するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：聴力と参加の不一致を統合できる：聴力の程度だけで軽症とせず、職業上の聴取要求と参加制限を評価する
イ：会話方略評価を整理する：聞き返し、話題確認、要点確認、視覚情報利用などを使っているか
ウ：騒音下の聞こえを評価する：発話速度だけを測る
エ：視覚情報の利用を整理する：聴覚情報を視覚情報で補完できる

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。聴覚障害の影響は生活・職業環境によって大きく変わる。
イ：この対応は正しい。修復方略は会話の破綻を減らす。
ウ：この対応が誤りである。聞き取り能力を直接示さない。
エ：この対応は正しい。顔・口形・身振りは語音理解を補助する。

総合解説：騒音下評価は補聴器・マイク・席配置等の支援計画に結びつく。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0075

成人聴覚障害 > コミュニケーション評価 | 難易度：応用

問題

「コミュニケーション評価」について聴力と参加の不一致を統合できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 聴力と参加の不一致を統合できる：聴力の程度だけで軽症とせず、職業上の聴取要求と参加制限を評価する / 会話方略評価を整理する：聞き返し、話題確認、要点確認、視覚情報利用などを使っているか

イ： 視覚情報の利用を整理する：聴力閾値そのものを正常化する / 聞き取り環境を評価する：テレビや音楽を大きくして会話する

ウ： 補聴器装用効果を症例から評価できる：語音・騒音下聴取と自己評価、会話環境、装用状況を再評価する / コミュニケーション目標を設定する：全員に同じ語音成績を目標とする

エ： コミュニケーション評価の目的を整理する：純音閾値だけを記録する / 自己評価尺度の意義を整理する：本人が感じる聴覚障害の程度や参加制限を把握できる

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 聴覚障害の影響は生活・職業環境によって大きく変わる。 修復方略は会話の破綻を減らす。

イ： に誤りを含む。 補償であり聴力を治すわけではない。 雑音を増やす。

ウ： は正しいが に誤りがある。 個性がない。

エ： に誤りがある。 生活上の困難を捉えない。 は正しい。

総合解説：本人が重要とする場面を具体的に設定し、機器・環境・方略を検討する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0076

成人聴覚障害 > コミュニケーション評価 | 難易度：標準

問題

「コミュニケーション評価」に関する知識を横断して確認する。会話方略評価を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：視覚情報の利用を整理する：聴覚情報を視覚情報で補完できる

イ：聞き取り環境を評価する：背景雑音を減らし、話者との距離を近くし、顔が見える位置を確保する

ウ：補聴器装用効果を症例から評価できる：語音・騒音下聴取と自己評価、会話環境、装用状況を再評価する

エ：会話方略評価を整理する：聞き返しを禁止する

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。顔・口形・身振りは語音理解を補助する。

イ：この対応は正しい。信号対雑音比と視覚アクセスを改善する。

ウ：この対応は正しい。機器利得だけでなく実生活のコミュニケーション成果を確認する。

エ：この対応が誤りである。修復機会を失う。

総合解説：コミュニケーション方略は本人とパートナー双方が習得すると効果的である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0077

成人聴覚障害 > コミュニケーション評価 | 難易度：基礎

問題

「コミュニケーション評価」の補償を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：聞き取り環境を評価する：テレビや音楽を大きくして会話する
イ：視覚情報の利用を整理する：聴覚情報を視覚情報で補完できる
ウ：補聴器装用効果を症例から評価できる：家族との会話は評価対象外とする
エ：コミュニケーション目標を設定する：会話相手のニーズを考慮しない

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。雑音を増やす。
イ：この対応は適切である。顔・口形・身振りは語音理解を補助する。
ウ：この対応は不適切である。重要な参加場面である。
エ：この対応は不適切である。パートナー支援も重要である。

総合解説：十分な照明と相手の顔が見える位置はコミュニケーション環境調整として有用である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0078

成人聴覚障害 > コミュニケーション評価 | 難易度：標準

問題

「コミュニケーション評価」について聞き取り環境を評価するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：補聴器装用効果を症例から評価できる：語音・騒音下聴取と自己評価、会話環境、装用状況を再評価する
イ：コミュニケーション目標を設定する：本人が重要とする具体的な場面で聞き取りと参加を改善する
ウ：コミュニケーション評価の目的を整理する：聞こえの問題が家庭・仕事・社会参加へどう影響しているかを把握する
エ：聞き取り環境を評価する：暗い場所で口元を見えなくする

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。機器利得だけでなく実生活のコミュニケーション成果を確認する。
イ：この対応は正しい。本人中心のりハでは実生活の目標を設定する。
ウ：この対応は正しい。聴力閾値だけでなく活動・参加上の困難を評価する。
エ：この対応が誤りである。視覚情報を失う。

総合解説：環境調整は補聴機器と組み合わせると有効性が高まる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0079

成人聴覚障害 > コミュニケーション評価 | 難易度：応用

問題

「コミュニケーション評価」のアウトカムについて、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： コミュニケーション評価の目的を整理する：補聴器の色だけを選ぶ / 自己評価尺度の意義を整理する：語音明瞭度を物理的に測定できる

イ： 補聴器装用効果を症例から評価できる：語音・騒音下聴取と自己評価、会話環境、装用状況を再評価する / コミュニケーション目標を設定する：本人が重要とする具体的な場面で聞き取りと参加を改善する

ウ： コミュニケーションパートナー評価を整理する：本人が気づきにくい聞き返しや会話場面の困難、家族側の負担を把握できる / 騒音下の聞こえを評価する：中耳圧だけを測る

エ： 聴力と参加の不一致を統合できる：仕事を变えるよう先に勧める / 会話方略評価を整理する：聞き返し、話題確認、要点確認、視覚情報利用などを使っているか

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 コミュニケーション評価ではない。 質問紙では直接測定しない。

イ： とも正しい。 機器利得だけでなく実生活のコミュニケーション成果を確認する。 本人中心のリハでは実生活の目標を設定する。

ウ： は正しいが に誤りがある。 実生活の語音理解を評価しない。

エ： に誤りがある。 まず支援可能性を評価する。 は正しい。

総合解説：成人聴覚リハでは本人報告、パートナー情報、客観的聴取成績を統合する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0080

成人聴覚障害 > コミュニケーション評価 | 難易度：標準

問題

「コミュニケーション評価」に関する知識を横断して確認する。コミュニケーション目標を設定するうえで誤っている対応はどれか。

ア：コミュニケーション評価の目的を整理する：聞こえの問題が家庭・仕事・社会参加へどう影響しているかを把握する

イ：コミュニケーション目標を設定する：聴力閾値だけを正常値にする

ウ：自己評価尺度の意義を整理する：本人が感じる聴覚障害の程度や参加制限を把握できる

エ：コミュニケーションパートナー評価を整理する：本人が気づきにくい聞き返しや会話場面の困難、家族側の負担を把握できる

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。聴力閾値だけでなく活動・参加上の困難を評価する。

イ：この対応が誤りである。不可能な場合も多く目的が狭い。

ウ：この対応は正しい。純音聴力と主観的困難は必ずしも一致しない。

エ：この対応は正しい。難聴は本人だけでなく会話相手にも影響する。

総合解説：SMARTな具体的目標を設定し、経過を評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0081

成人聴覚障害 > 成人聴覚リハビリテーション | 難易度：基礎

問題

「成人聴覚リハビリテーション」のリハ基礎を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：補聴器の役割を整理する：語音理解を全条件で100％にする
イ：情報提供カウンセリングを整理する：難聴について本人へ知らせない
ウ：成人聴覚リハの概念を整理する：難聴による機能・活動・参加の制約を減らし、コミュニケーションと生活の質を高める
エ：コミュニケーションパートナーを含む支援を整理する：本人の意思を家族が代替するため

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。保証できない。
イ：この対応は不適切である。共有意思決定に反する。
ウ：この対応は適切である。成人聴覚リハは機器だけでなく教育・訓練・心理社会的支援を含む。
エ：この対応は不適切である。本人中心が基本である。

総合解説：ARIは感覚管理、情報提供、調整カウンセリング、聴覚訓練などを含む。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0082

成人聴覚障害 > 成人聴覚リハビリテーション | 難易度：標準

問題

「成人聴覚リハビリテーション」について補聴器の役割を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：情報提供カウンセリングを整理する：難聴の特徴、補聴機器の使い方、会話方略、環境調整について分かりやすく説明する
イ：補聴器の役割を整理する：損傷した有毛細胞を再生する
ウ：コミュニケーションパートナーを含む支援を整理する：会話方法や環境調整を双方で共有し、日常のコミュニケーション成功を高められる
エ：複合的な成人ARを統合できる：補聴器調整に加え、会議環境の改善、補助機器、会話方略、心理的適応支援を組み合わせる

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。ASHAガイドラインは情報提供を成人ARの一要素として推奨する。
イ：この対応が誤りである。補聴器にはできない。
ウ：この対応は正しい。難聴の影響は会話相手にも及ぶ。
エ：この対応は正しい。成人ARは機器・環境・技能・心理社会面を統合する。

総合解説：補聴器適合では聴力、語音、生活ニーズ、操作能力を考慮する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0083

成人聴覚障害 > 成人聴覚リハビリテーション | 難易度：基礎

問題

成人聴覚リハビリテーションの学習でカウンセリングを行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：情報提供カウンセリングを整理する：難聴の特徴、補聴機器の使い方、会話方略、環境調整について分かりやすく説明する

イ：コミュニケーションパートナーを含む支援を整理する：本人の意思を家族が代替するため

ウ：複合的な成人ARを統合できる：本人の不安を治療対象外とする

エ：聴覚訓練を整理する：中耳炎を治療する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。ASHAガイドラインは情報提供を成人ARの一要素として推奨する。

イ：この対応は不適切である。本人中心が基本である。

ウ：この対応は不適切である。適応支援が重要である。

エ：この対応は不適切である。医学的治療である。

総合解説：情報量は本人の理解力・準備性に合わせて調整する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0084

成人聴覚障害 > 成人聴覚リハビリテーション | 難易度：標準

問題

「成人聴覚リハビリテーション」に関する知識を横断して確認する。コミュニケーションパートナーを含む支援を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：コミュニケーションパートナーを含む支援を整理する：本人へ直接話しかけないため

イ：複合的な成人ARを統合できる：補聴器調整に加え、会議環境の改善、補助機器、会話方略、心理的適応支援を組み合わせる

ウ：聴覚訓練を整理する：残存聴覚と補聴信号を使って語音認識・聴取技能を改善する

エ：補助聴覚機器を整理する：遠隔マイクなど話者音声を直接受信できる補助聴覚技術

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。逆である。

イ：この対応は正しい。成人ARは機器・環境・技能・心理社会面を統合する。

ウ：この対応は正しい。知覚訓練は成人ARの一要素となる。

エ：この対応は正しい。話者と聞き手の距離や雑音の影響を減らしSNRを改善できる。

総合解説：相手の注意を引いてから話す、顔を見せる、雑音を減らす等を共に練習する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0085

成人聴覚障害 > 成人聴覚リハビリテーション | 難易度：応用

問題

「成人聴覚リハビリテーション」の複合介入について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 補助聴覚機器を整理する：話者からさらに離れる / 補聴器装用指導を整理する：フォローアップを行わない

イ： 成人ARの効果を症例から評価できる：装用時間だけで成功とせず、コミュニケーション目標、心理面、環境、機器効果を再評価する / 自己権利擁護を整理する：困っても配慮を求めないよう勧める

ウ： 成人聴覚リハの概念を整理する：会話場面を減らす / 補聴器の役割を整理する：残存聴力を活用できるよう音声などを増幅・処理する

エ： 複合的な成人ARを統合できる：補聴器調整に加え、会議環境の改善、補助機器、会話方略、心理的適応支援を組み合わせる / 聴覚訓練を整理する：残存聴覚と補聴信号を使って語音認識・聴取技能を改善する

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 音声レベルが下がる。 適応や微調整の機会が必要である。

イ： は正しいが に誤りがある。 参加を妨げる。

ウ： に誤りがある。 参加を高める方向と逆である。 は正しい。

エ： とも正しい。 成人ARは機器・環境・技能・心理社会面を統合する。 知覚訓練は成人ARの一要素となる。

総合解説：ASHAのガイドラインは複数要素を本人中心に組み合わせるARを扱っている。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0086

成人聴覚障害 > 成人聴覚リハビリテーション | 難易度：標準

問題

「成人聴覚リハビリテーション」について聴覚訓練を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：補助聴覚機器を整理する：遠隔マイクなど話者音声を直接受信できる補助聴覚技術

イ：補聴器装用指導を整理する：装着・充電や電池交換・清掃・保管・トラブル対応を実際に練習する

ウ：聴覚訓練を整理する：補聴器を使わず聴力閾値を必ず正常化する

エ：成人ARの効果を症例から評価できる：装用時間だけで成功とせず、コミュニケーション目標、心理面、環境、機器効果を再評価する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。話者と聞き手の距離や雑音の影響を減らしSNRを改善できる。

イ：この対応は正しい。機器の扱い方を身につけることは継続使用に重要である。

ウ：この対応が誤りである。目的ではない。

エ：この対応は正しい。成人ARの成果は装用時間だけでなく参加・満足・自己効力感等で判断する。

総合解説：訓練課題は本人の目標や補聴器・人工内耳使用状況に合わせる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0087

成人聴覚障害 > 成人聴覚リハビリテーション | 難易度：基礎

問題

成人聴覚リハビリテーションの学習で聴覚支援技術を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：補聴器装用指導を整理する：フォローアップを行わない
イ：成人ARの効果を症例から評価できる：使用時間が増えたので介入終了とする
ウ：自己権利擁護を整理する：難聴を必ず隠すよう指導する
エ：補助聴覚機器を整理する：遠隔マイクなど話者音声を直接受信できる補助聴覚技術

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。適応や微調整の機会が必要である。
イ：この対応は不適切である。重要な成果が改善していない。
ウ：この対応は不適切である。本人の選択を尊重しない。
エ：この対応は適切である。話者と聞き手の距離や雑音の影響を減らしSNRを改善できる。

総合解説：機器選択は生活場面と互換性、操作性、本人の希望に応じて行う。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0088

成人聴覚障害 > 成人聴覚リハビリテーション | 難易度：標準

問題

「成人聴覚リハビリテーション」に関する知識を横断して確認する。補聴器装用指導を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：成人ARの効果を症例から評価できる：装用時間だけで成功とせず、コミュニケーション目標、心理面、環境、機器効果を再評価する
イ：補聴器装用指導を整理する：説明書だけ渡して確認しない
ウ：自己権利擁護を整理する：職場や公共場面で必要な聞こえの配慮を自分で説明・依頼できるよう支援する
エ：成人聴覚リハの概念を整理する：難聴による機能・活動・参加の制約を減らし、コミュニケーションと生活の質を高める

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。成人ARの成果は装用時間だけでなく参加・満足・自己効力感等で判断する。
イ：この対応が誤りである。理解・操作確認が不足する。
ウ：この対応は正しい。自己権利擁護は生活参加を高める成人ARの重要な要素である。
エ：この対応は正しい。成人聴覚リハは機器だけでなく教育・訓練・心理社会的支援を含む。

総合解説：情報提供と実技指導、フォローアップを組み合わせる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0089

成人聴覚障害 > 成人聴覚リハビリテーション | 難易度：応用

問題

成人聴覚リハビリテーションの関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 成人聴覚リハの概念を整理する：補聴器を全員に同じ設定で装用させる / 補聴器の役割を整理する：損傷した有毛細胞を再生する

イ： 情報提供カウンセリングを整理する：難聴の特徴、補聴機器の使い方、会話方略、環境調整について分かりやすく説明する / コミュニケーションパートナーを含む支援を整理する：本人の意思を家族が代替するため

ウ： 複合的な成人ARを統合できる：本人の不安を治療対象外とする / 聴覚訓練を整理する：残存聴覚と補聴信号を使って語音認識・聴取技能を改善する

エ： 成人ARの効果を症例から評価できる：装用時間だけで成功とせず、コミュニケーション目標、心理面、環境、機器効果を再評価する / 自己権利擁護を整理する：職場や公共場面で必要な聞こえの配慮を自分で説明・依頼できるよう支援する

0090

成人聴覚障害 > 成人聴覚リハビリテーション | 難易度：標準

問題

「成人聴覚リハビリテーション」について自己権利擁護を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：成人聴覚リハの概念を整理する：難聴による機能・活動・参加の制約を減らし、コミュニケーションと生活の質を高める

イ：補聴器の役割を整理する：残存聴力を活用できるよう音声などを増幅・処理する

ウ：自己権利擁護を整理する：会話相手に全責任を負わせる

エ：情報提供カウンセリングを整理する：難聴の特徴、補聴機器の使い方、会話方略、環境調整について分かりやすく説明する

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 個別化が必要である。 補聴器にはできない。

イ： は正しいが に誤りがある。 本人中心が基本である。

ウ： に誤りがある。 適応支援が重要である。 は正しい。

エ： とも正しい。 成人ARの成果は装用時間だけでなく参加・満足・自己効力感等で判断する。 自己権利擁護は生活参加を高める成人ARの重要な要素である。

総合解説：必要な機器調整、方略訓練、パートナー支援、カウンセリングを追加する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。成人聴覚リハは機器だけでなく教育・訓練・心理社会的支援を含む。

イ：この対応は正しい。補聴器は音響信号を聴力特性に合わせて調整する。

ウ：この対応が誤りである。協働的支援ではない。

エ：この対応は正しい。ASHAガイドラインは情報提供を成人ARの一要素として推奨する。

総合解説：本人の価値観や職場環境に合わせ、具体的な伝え方や利用可能な支援技術を検討する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0091

小児聴覚障害 > 新生児聴覚スクリーニング | 難易度：基礎

問題

新生児聴覚スクリーニングの学習でスクリーニング基礎を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：1-3-6ルールを整理する：1か月で療育終了、3か月で再検査、6か月で診断
イ：新生児聴覚スクリーニングの目的を整理する：先天性・早期発症の難聴を早く見つけ、精密検査と早期支援につなげる
ウ：AABRの用途を整理する：補聴器利得を測る検査
エ：referの意味を整理する：再評価は不要である

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。順序が異なる。
イ：この対応は適切である。スクリーニングは難聴の疑いを早期に拾い上げるために行う。
ウ：この対応は不適切である。補聴器評価ではない。
エ：この対応は不適切である。精密検査が必要である。

総合解説：早期発見から精密検査・療育へ切れ目なくつながることが重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0092

小児聴覚障害 > 新生児聴覚スクリーニング | 難易度：標準

問題

「新生児聴覚スクリーニング」に関する知識を横断して確認する。1-3-6ルールを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：AABRの用途を整理する：音刺激に対する脳幹反応を自動解析してpass/referを判定する
イ：1-3-6ルールを整理する：生後1日で診断確定、3日で手術、6日で療育
ウ：referの意味を整理する：難聴が確定したのではなく、精密聴力検査が必要である
エ：pass後の継続観察を統合できる：pass歴だけで難聴を否定せず、改めて精密聴覚評価を行う

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。AABRは新生児の行動反応を必要としない他覚的検査である。
イ：この対応が誤りである。そのようなルールではない。
ウ：この対応は正しい。スクリーニングは診断検査ではない。
エ：この対応は正しい。遅発性・進行性難聴や、スクリーニング後に生じる難聴もある。

総合解説：早期支援は音声言語・手話を含むコミュニケーション発達に重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0093

小児聴覚障害 > 新生児聴覚スクリーニング | 難易度：基礎

問題

「新生児聴覚スクリーニング」の新生児検査を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：AABRの用途を整理する：音刺激に対する脳幹反応を自動解析してpass/referを判定する
イ：referの意味を整理する：再評価は不要である
ウ：pass後の継続観察を統合できる：家庭の声掛け不足と断定する
エ：両耳評価の重要性を整理する：refer耳だけをみて反対耳は評価しない

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。AABRは新生児の行動反応を必要としない他覚的検査である。
イ：この対応は不適切である。精密検査が必要である。
ウ：この対応は不適切である。原因は多様である。
エ：この対応は不適切である。両耳評価が必要である。

総合解説：referは難聴確定ではなく精密検査が必要という意味である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0094

小児聴覚障害 > 新生児聴覚スクリーニング | 難易度：標準

問題

「新生児聴覚スクリーニング」についてreferの意味を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：referの意味を整理する：補聴器を即日必ず装用する
イ：pass後の継続観察を統合できる：pass歴だけで難聴を否定せず、改めて精密聴覚評価を行う
ウ：両耳評価の重要性を整理する：両耳をそれぞれ評価し、左右の聴力と病態を確認する
エ：新生児スクリーニングの他覚性を整理する：新生児は指示に従った自覚的応答ができないため

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。診断・評価後に適応を決める。
イ：この対応は正しい。遅発性・進行性難聴や、スクリーニング後に生じる難聴もある。
ウ：この対応は正しい。一側性難聴でも発達や学校生活に影響し得るため耳別評価が必要である。
エ：この対応は正しい。AABRやOAEは行動反応に依存せず測定できる。

総合解説：家族へ不必要な不安を与えず、確実に精密検査へつなげることが重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0095

小児聴覚障害 > 新生児聴覚スクリーニング | 難易度：応用

問題

新生児聴覚スクリーニングの関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： pass後の継続観察を統合できる：pass歴だけで難聴を否定せず、改めて精密聴覚評価を行う / 両耳評価の重要性を整理する：両耳をそれぞれ評価し、左右の聴力と病態を確認する

イ： 新生児スクリーニングの他覚性を整理する：新生児は純音のボタン押しが正確だから / 精密検査への紹介先を整理する：一般家庭で再検査だけして終了する

ウ： 家族説明を症例から判断できる：referは要精査の意味で確定診断ではないことを説明し、早めに精密検査へつなげる / スクリーニングと診断を区別する：精密検査はpass児にしか行わない

エ： 新生児聴覚スクリーニングの目的を整理する：難聴の原因をその場で確定する / 1-3-6ルールを整理する：生後1か月までにスクリーニング、3か月までに精密検査、6か月までに療育開始

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 遅発性・進行性難聴や、スクリーニング後に生じる難聴もある。 一側性難聴でも発達や学校生活に影響し得るため耳別評価が必要である。

イ： に誤りを含む。 できない。 精密評価が必要である。

ウ： は正しいが に誤りがある。 主にrefer児や発達上懸念のある児に行う。

エ： に誤りがある。 スクリーニングだけでは原因診断できない。 は正しい。

総合解説：小児ではスクリーニング後も聴覚・言語発達を継続的にモニタリングする。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0096

小児聴覚障害 > 新生児聴覚スクリーニング | 難易度：標準

問題

「新生児聴覚スクリーニング」に関する知識を横断して確認する。両耳評価の重要性を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：新生児スクリーニングの他覚性を整理する：新生児は指示に従った自覚的応答ができないため

イ：精密検査への紹介先を整理する：乳幼児の精密聴力検査が可能な医療機関へ速やかに紹介する

ウ：家族説明を症例から判断できる：referは要精査の意味で確定診断ではないことを説明し、早めに精密検査へつなげる

エ：両耳評価の重要性を整理する：片耳なら支援不要とする

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。AABRやOAEは行動反応に依存せず測定できる。

イ：この対応は正しい。乳幼児の聴力確定には専門的な検査環境と経験が必要である。

ウ：この対応は正しい。結果の意味を正確に伝え、次の行動を明確にする。

エ：この対応が誤りである。機能的影響を評価する。

総合解説：一側性・非対称性難聴も早期に把握し、必要なフォローを行う。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0097

小児聴覚障害 > 新生児聴覚スクリーニング | 難易度：基礎

問題

「新生児聴覚スクリーニング」の検査特性を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：精密検査への紹介先を整理する：一般家庭で再検査だけして終了する
イ：家族説明を症例から判断できる：必ず重度難聴だと伝える
ウ：スクリーニングと診断を区別する：スクリーニングだけで補聴器適合まで完了する
エ：新生児スクリーニングの他覚性を整理する：新生児は指示に従った自覚的応答ができないため

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。精密評価が必要である。
イ：この対応は不適切である。確定していない。
ウ：この対応は不適切である。追加評価が必要である。
エ：この対応は適切である。AABRやOAEは行動反応に依存せず測定できる。

総合解説：精密評価ではABR、ASSR、OAE、中耳評価、行動聴力などを発達に応じて組み合わせる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0098

小児聴覚障害 > 新生児聴覚スクリーニング | 難易度：標準

問題

「新生児聴覚スクリーニング」について精密検査への紹介先を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：家族説明を症例から判断できる：referは要精査の意味で確定診断ではないことを説明し、早めに精密検査へつなげる
イ：スクリーニングと診断を区別する：スクリーニングで疑いを拾い、精密検査で聴力レベル・難聴型などを詳しく評価する
ウ：精密検査への紹介先を整理する：就学まで待つ
エ：新生児聴覚スクリーニングの目的を整理する：先天性・早期発症の難聴を早く見つけ、精密検査と早期支援につなげる

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。結果の意味を正確に伝え、次の行動を明確にする。
イ：この対応は正しい。両者は目的と精度が異なる。
ウ：この対応が誤りである。早期支援の機会を失う。
エ：この対応は正しい。スクリーニングは難聴の疑いを早期に拾い上げるために行う。

総合解説：紹介後の受診確認を含むフォローアップも重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0099

小児聴覚障害 > 新生児聴覚スクリーニング | 難易度：応用

問題

「新生児聴覚スクリーニング」について家族説明を症例から判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 新生児聴覚スクリーニングの目的を整理する：補聴器の機種を決定する / 1-3-6ルールを整理する：生後1日で診断確定、3日で手術、6日で療育

イ： 家族説明を症例から判断できる：referは要精査の意味で確定診断ではないことを説明し、早めに精密検査へつなげる / スクリーニングと診断を区別する：スクリーニングで疑いを拾い、精密検査で聴力レベル・難聴型などを詳しく評価する

ウ： AABRの用途を整理する：音刺激に対する脳幹反応を自動解析してpass/referを判定する / referの意味を整理する：再評価は不要である

エ： pass後の継続観察を統合できる：家庭の声掛け不足と断定する / 両耳評価の重要性を整理する：両耳をそれぞれ評価し、左右の聴力と病態を確認する

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 精密評価後に検討する。 そのようなルールではない。

イ： とも正しい。 結果の意味を正確に伝え、次の行動を明確にする。 両者は目的と精度が異なる。

ウ： は正しいが に誤りがある。 精密検査が必要である。

エ： に誤りがある。 原因は多様である。 は正しい。

総合解説：家族の不安に配慮しながら、検査・診断・支援の流れを説明する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0100

小児聴覚障害 > 新生児聴覚スクリーニング | 難易度：標準

問題

「新生児聴覚スクリーニング」に関する知識を横断して確認する。スクリーニングと診断を区別するうえで誤っている対応はどれか。

ア：新生児聴覚スクリーニングの目的を整理する：先天性・早期発症の難聴を早く見つけ、精密検査と早期支援につなげる

イ：1-3-6ルールを整理する：生後1か月までにスクリーニング、3か月までに精密検査、6か月までに療育開始

ウ：AABRの用途を整理する：音刺激に対する脳幹反応を自動解析してpass/referを判定する

エ：スクリーニングと診断を区別する：両者は全く同じ検査である

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。スクリーニングは難聴の疑いを早期に拾い上げるために行う。

イ：この対応は正しい。日本の小児難聴診療の手引きでも1-3-6ルールが示されている。

ウ：この対応は正しい。AABRは新生児の行動反応を必要としない他覚的検査である。

エ：この対応が誤りである。役割が異なる。

総合解説：早期発見の質はスクリーニング後の確実な精査・支援まで含めて評価される。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0101

小児聴覚障害 > 聴覚・言語発達の評価 | 難易度：基礎

問題

「聴覚・言語発達の評価」の小児聴力評価を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：VRA/CORの意義を整理する：語音を文章で復唱させる
イ：小児聴力評価を発達段階に合わせる：発達年齢に合う行動検査と他覚的検査を組み合わせる
ウ：言語発達評価の領域を整理する：純音閾値だけ
エ：補聴器装用効果を発達から評価する：補聴器の価格だけ

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。年齢に合わない。
イ：この対応は適切である。乳幼児では一つの方法だけで聴力を確定しにくいためcross-checkが重要である。
ウ：この対応は不適切である。言語発達を直接示さない。
エ：この対応は不適切である。効果とは無関係である。

総合解説：ABR/ASSR、OAE、ティンパノメトリ、VRA/CORなどを組み合わせる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0102

小児聴覚障害 > 聴覚・言語発達の評価 | 難易度：標準

問題

「聴覚・言語発達の評価」についてVRA/CORの意義を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：言語発達評価の領域を整理する：受容・表出語彙、文法、語用、発話、機能的コミュニケーション
イ：VRA/CORの意義を整理する：中耳圧を直接測る
ウ：補聴器装用効果を発達から評価する：装用下の聴覚反応と、語彙・言語・コミュニケーション発達の経過
エ：聴力と発達の不一致を統合できる：補聴器適合・装用実態・語音聴取・全般発達を再評価し、必要なら人工内耳評価も検討する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。聴覚障害の影響は言語の複数領域へ及び得る。
イ：この対応が誤りである。ティンパノメトリである。
ウ：この対応は正しい。補聴器の物理的適合だけでなく発達上の成果を追う必要がある。
エ：この対応は正しい。装用閾値だけで実用的な聴覚アクセスを判断できない。

総合解説：他覚的検査と合わせて聴力レベル・聴力型を推定する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0103

小児聴覚障害 > 聴覚・言語発達の評価 | 難易度：基礎

問題

聴覚・言語発達の評価の学習で言語評価を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：補聴器装用効果を発達から評価する：補聴器の価格だけ
イ：聴力と発達の不一致を統合できる：装用閾値が良いので問題なしとする
ウ：言語発達評価の領域を整理する：受容・表出語彙、文法、語用、発話、機能的コミュニケーション
エ：機能的聴取を整理する：耳介の大きさだけ

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。効果とは無関係である。
イ：この対応は不適切である。機能的成果が不十分である。
ウ：この対応は適切である。聴覚障害の影響は言語の複数領域へ及び得る。
エ：この対応は不適切である。機能的聴取ではない。

総合解説：言語評価は聴覚アクセス、補聴機器使用、家庭言語と結びつけて解釈する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0104

小児聴覚障害 > 聴覚・言語発達の評価 | 難易度：標準

問題

「聴覚・言語発達の評価」に関する知識を横断して確認する。補聴器装用効果を発達から評価するうえで誤っている対応はどれか。

ア：聴力と発達の不一致を統合できる：補聴器適合・装用実態・語音聴取・全般発達を再評価し、必要なら人工内耳評価も検討する
イ：機能的聴取を整理する：日常場面で呼名、環境音、会話、騒音下の音声へどの程度反応できるか
ウ：全般発達評価を行う意義を整理する：重複障害や発達特性が言語・聴覚成果へ影響することがあるため
エ：補聴器装用効果を発達から評価する：裸耳聴力だけ

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。装用閾値だけで実用的な聴覚アクセスを判断できない。
イ：この対応は正しい。検査室の閾値だけでなく生活場面での聴覚利用をみる。
ウ：この対応は正しい。小児の支援計画は聴覚だけでなく全体発達に基づく。
エ：この対応が誤りである。装用効果を示さない。

総合解説：期待される発達が得られない場合は適合、装用時間、病態、CI評価などを再検討する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0105

小児聴覚障害 > 聴覚・言語発達の評価 | 難易度：応用

問題

「聴覚・言語発達の評価」について聴力と発達の不一致を統合できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 全般発達評価を行う意義を整理する：難聴児には他の発達障害が存在しないから / 家庭言語を考慮する：教育機関の言語だけで全て判断する

イ： 学齢期の聞こえを症例から評価できる：騒音・距離・残響を含む教室での機能的聴取と補聴援助システムの必要性を評価する / 継続的モニタリングを整理する：一度補聴器を合わせれば生涯同じでよい

ウ： 聴力と発達の不一致を統合できる：補聴器適合・装用実態・語音聴取・全般発達を再評価し、必要なら人工内耳評価も検討する / 機能的聴取を整理する：日常場面で呼名、環境音、会話、騒音下の音声へどの程度反応できるか

エ： 小児聴力評価を発達段階に合わせる：成人と同じボタン押し検査だけを行う / VRA/CORの意義を整理する：発達に応じた行動反応から聴覚閾値を推定する

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 併存し得る。 家庭での能力を見落とす。

イ： は正しいが、 に誤りがある。 耳の成長や聴力変化がある。

ウ： とも正しい。 装用閾値だけで実用的な聴覚アクセスを判断できない。 検査室の閾値だけでなく生活場面での聴覚利用をみる。

エ： に誤りがある。 発達上困難なことがある。 は正しい。

総合解説：小児の補聴・CI適応は聴力、補聴効果、語音・言語発達、家族・療育環境を統合する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0106

小児聴覚障害 > 聴覚・言語発達の評価 | 難易度：標準

問題

「聴覚・言語発達の評価」について機能的聴取を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：全般発達評価を行う意義を整理する：重複障害や発達特性が言語・聴覚成果へ影響することがあるため

イ：家庭言語を考慮する：可能な範囲で両方の言語経験を把握し、家庭言語を障害と誤認しない

ウ：学齢期の聞こえを症例から評価できる：騒音・距離・残響を含む教室での機能的聴取と補聴援助システムの必要性を評価する

エ：機能的聴取を整理する：発声時の声帯振動だけ

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。小児の支援計画は聴覚だけでなく全体発達に基づく。

イ：この対応は正しい。多言語環境そのものは言語障害ではない。

ウ：この対応は正しい。学校では音響環境が聴取に大きく影響する。

エ：この対応が誤りである。音声評価である。

総合解説：保護者・教師質問紙や自然観察も機能的聴取の把握に役立つ。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0107

小児聴覚障害 > 聴覚・言語発達の評価 | 難易度：基礎

問題

聴覚・言語発達の評価の学習で発達評価を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。ここでは「全般発達・重複障害」との関連を手掛かりに整理する。

ア：全般発達評価を行う意義を整理する：重複障害や発達特性が言語・聴覚成果へ影響することがあるため

イ：家庭言語を考慮する：教育機関の言語だけで全て判断する

ウ：学齢期の聞こえを症例から評価できる：補聴器を外して授業を受けさせる

エ：継続的モニタリングを整理する：言語発達は自然に必ず追いつく

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。小児の支援計画は聴覚だけでなく全体発達に基づく。

イ：この対応は不適切である。家庭での能力を見落とす。

ウ：この対応は不適切である。聴覚アクセスを悪化させる。

エ：この対応は不適切である。個人差があり支援が必要なことがある。

総合解説：発達プロフィールに応じて評価方法や目標を調整する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0108

小児聴覚障害 > 聴覚・言語発達の評価 | 難易度：標準

問題

「聴覚・言語発達の評価」に関する知識を横断して確認する。家庭言語を考慮するうえで誤っている対応はどれか。

ア：学齢期の聞こえを症例から評価できる：騒音・距離・残響を含む教室での機能的聴取と補聴援助システムの必要性を評価する

イ：家庭言語を考慮する：家庭言語の使用を禁止する

ウ：継続的モニタリングを整理する：聴力変動・進行、耳の成長、機器適合、発達要求の変化を早期に把握するため

エ：小児聴力評価を発達段階に合わせる：発達年齢に合う行動検査と他覚的検査を組み合わせる

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。学校では音響環境が聴取に大きく影響する。

イ：この対応が誤りである。家族中心支援に反する。

ウ：この対応は正しい。小児は身体・言語・学習環境が変化するため定期評価が必要である。

エ：この対応は正しい。乳幼児では一つの方法だけで聴力を確定しにくいいためcross-checkが重要である。

総合解説：家族の文化・言語背景に沿った評価とコミュニケーション支援が必要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0109

小児聴覚障害 > 聴覚・言語発達の評価 | 難易度：応用

問題

「聴覚・言語発達の評価」の学校評価について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 学齢期の聞こえを症例から評価できる：騒音・距離・残響を含む教室での機能的聴取と補聴援助システムの必要性を評価する / 継続的モニタリングを整理する：聴力変動・進行、耳の成長、機器適合、発達要求の変化を早期に把握するため

イ： 小児聴力評価を発達段階に合わせる：ABRだけで全ての機能的聴取を決める / VRA/CORの意義を整理する：中耳圧を直接測る

ウ： 言語発達評価の領域を整理する：受容・表出語彙、文法、語用、発話、機能的コミュニケーション / 補聴器装用効果を発達から評価する：補聴器の価格だけ

エ： 聴力と発達の不一致を統合できる：装用閾値が良いので問題なしとする / 機能的聴取を整理する：日常場面で呼名、環境音、会話、騒音下の音声へどの程度反応できるか

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 学校では音響環境が聴取に大きく影響する。 小児は身体・言語・学習環境が変化するため定期評価が必要である。

イ： に誤りを含む。 行動反応や発達も必要である。 ティンパノメトリである。

ウ： は正しいが に誤りがある。 効果とは無関係である。

エ： に誤りがある。 機能的成果が不十分である。 は正しい。

総合解説：遠隔マイク等によりSNRを改善できる場合がある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0110

小児聴覚障害 > 聴覚・言語発達の評価 | 難易度：標準

問題

「聴覚・言語発達の評価」について継続的モニタリングを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：小児聴力評価を発達段階に合わせる：発達年齢に合う行動検査と他覚的検査を組み合わせる

イ：VRA/CORの意義を整理する：発達に応じた行動反応から聴覚閾値を推定する

ウ：言語発達評価の領域を整理する：受容・表出語彙、文法、語用、発話、機能的コミュニケーション

エ：継続的モニタリングを整理する：就学後は聴覚評価不要である

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。乳幼児では一つの方法だけで聴力を確定しにくいためcross-checkが重要である。

イ：この対応は正しい。VRAやCORは乳幼児の行動聴力評価に用いられる。

ウ：この対応は正しい。聴覚障害の影響は言語の複数領域へ及び得る。

エ：この対応が誤りである。学校要求が高まる。

総合解説：聴力、機器、聴取、言語、学校参加を一体として追跡する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0111

小児聴覚障害 > 療育・教育・家族支援 | 難易度：基礎

問題

療育・教育・家族支援の学習で早期支援を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：家族中心支援を整理する：家族には機器管理だけを任せる
イ：早期療育の重要性を整理する：十分なコミュニケーションアクセスを確保し、言語・認知・社会情緒発達を支える
ウ：コミュニケーション方法の多様性を整理する：全員に音声だけを強制する
エ：家庭での機器使用を支える：故障しても次回受診まで放置する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。より広い支援が必要である。
イ：この対応は適切である。早期支援は聴覚だけでなく子どもの全体発達を支える。
ウ：この対応は不適切である。本人・家族の選択を尊重しない。
エ：この対応は不適切である。聴覚アクセスを失う。

総合解説：1-3-6の枠組みでは6か月までの療育開始が重視される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0112

小児聴覚障害 > 療育・教育・家族支援 | 難易度：標準

問題

「療育・教育・家族支援」に関する知識を横断して確認する。家族中心支援を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：コミュニケーション方法の多様性を整理する：音声、手話、視覚情報、AAC等を含め、本人・家族のニーズに応じてアクセス可能な方法を検討する
イ：家族中心支援を整理する：家庭言語を使わないよう指示する
ウ：家庭での機器使用を支える：毎日機器を確認し、装用時間と子どもの反応を観察して専門家と共有する
エ：学校参加を統合して支援できる：補聴機器、座席・音響環境、遠隔マイク、教師・友人へのコミュニケーション配慮を組み合わせる

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。一つの方法を全員に強制するのではなく、十分な言語アクセスを保障する。
イ：この対応が誤りである。文化・言語背景を尊重する。
ウ：この対応は正しい。安定した聴覚アクセスには機器の適切な使用と日常チェックが重要である。
エ：この対応は正しい。学校支援では聴覚アクセスと社会参加の双方を扱う。

総合解説：支援方法は家族の選択を尊重し、必要に応じて見直す。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0113

小児聴覚障害 > 療育・教育・家族支援 | 難易度：基礎

問題

「療育・教育・家族支援」の療育を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：コミュニケーション方法の多様性を整理する：音声、手話、視覚情報、AAC等を含め、本人・家族のニーズに応じてアクセス可能な方法を検討する

イ：家庭での機器使用を支える：故障しても次回受診まで放置する

ウ：学校参加を統合して支援できる：補聴器だけ渡して環境を変えない

エ：保護者コーチングを整理する：家庭での遊びを減らす

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。一つの方法を全員に強制するのではなく、十分な言語アクセスを保障する。

イ：この対応は不適切である。聴覚アクセスを失う。

ウ：この対応は不適切である。騒音・距離の影響が残る。

エ：この対応は不適切である。自然な相互作用が重要である。

総合解説：コミュニケーション様式は発達や希望に応じ変化することもある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0114

小児聴覚障害 > 療育・教育・家族支援 | 難易度：標準

問題

「療育・教育・家族支援」について家庭での機器使用を支えるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：学校参加を統合して支援できる：補聴機器、座席・音響環境、遠隔マイク、教師・友人へのコミュニケーション配慮を組み合わせる

イ：家庭での機器使用を支える：嫌がれば長期間必ず外す

ウ：保護者コーチングを整理する：日常生活の中で子どものコミュニケーション機会を増やせるよう家族を支援する

エ：療育チームの連携を整理する：耳鼻咽喉科、聴覚専門職、言語聴覚士、療育・教育機関、家族

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。学校支援では聴覚アクセスと社会参加の双方を扱う。

イ：この対応が誤りである。原因を評価し適合を見直す。

ウ：この対応は正しい。家庭の日常場面は言語学習の大きな機会である。

エ：この対応は正しい。聴力管理、機器、言語、教育、家族支援を一貫して行うため連携が必要である。

総合解説：耳型の成長やハウリング、装用快適性も継続的に確認する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0115

小児聴覚障害 > 療育・教育・家族支援 | 難易度：応用

問題

「療育・教育・家族支援」の教育支援について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア：療育チームの連携を整理する：医療と学校は情報共有しない / 家族への情報提供を整理する：質問を受け付けない

イ：学校参加を統合して支援できる：補聴機器、座席・音響環境、遠隔マイク、教師・友人へのコミュニケーション配慮を組み合わせる / 保護者コーチングを整理する：日常生活の中で子どものコミュニケーション機会を増やせるよう家族を支援する

ウ：療育効果を症例から再評価できる：聴力・補聴器適合・装用状況・全般発達・療育内容を再評価し、支援方針を見直す / 本人中心の教育支援を整理する：本人に説明せず周囲だけで決める

エ：早期療育の重要性を整理する：補聴器の機械操作だけを覚えさせる / 家族中心支援を整理する：家族の価値観・言語・生活・希望を確認し、情報を提供して共同で目標を決める

答え・解説

正答：イ

ア：に誤りを含む。連携が重要である。家族中心支援に反する。

イ：とも正しい。学校支援では聴覚アクセスと社会参加の双方を扱う。家庭の日常場面は言語学習の大きな機会である。

ウ：は正しいがに誤りがある。本人中心ではない。

エ：に誤りがある。目的が狭い。は正しい。

総合解説：教育・医療・家庭で情報を共有し、実際の教室で効果を評価する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0116

小児聴覚障害 > 療育・教育・家族支援 | 難易度：標準

問題

「療育・教育・家族支援」に関する知識を横断して確認する。保護者コーチングを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：療育チームの連携を整理する：耳鼻咽喉科、聴覚専門職、言語聴覚士、療育・教育機関、家族

イ：保護者コーチングを整理する：子どもの反応を待たず常に先回りする

ウ：家族への情報提供を整理する：聴力、予想される影響、補聴機器、コミュニケーション選択肢、支援制度を分かりやすく説明する

エ：療育効果を症例から再評価できる：聴力・補聴器適合・装用状況・全般発達・療育内容を再評価し、支援方針を見直す

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。聴力管理、機器、言語、教育、家族支援を一貫して行うため連携が必要である。

イ：この対応が誤りである。発信機会を減らす。

ウ：この対応は正しい。家族が十分な情報に基づき選択できるよう支援する。

エ：この対応は正しい。期待される発達が得られない場合は原因を一つに決めつけず総合的に再評価する。

総合解説：子どもの注意に合わせ、反応を待ち、意味ある言語を返すなどの方法を共有する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0117

小児聴覚障害 > 療育・教育・家族支援 | 難易度：基礎

問題

「療育・教育・家族支援」の多職種連携を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：療育チームの連携を整理する：耳鼻咽喉科、聴覚専門職、言語聴覚士、療育・教育機関、家族
イ：家族への情報提供を整理する：質問を受け付けない
ウ：療育効果を症例から再評価できる：聴力検査を行わない
エ：本人中心の教育支援を整理する：配慮を求めることを禁止する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。聴力管理、機器、言語、教育、家族支援を一貫して行うため連携が必要である。
イ：この対応は不適切である。家族中心支援に反する。
ウ：この対応は不適切である。聴力変動等を確認する必要がある。
エ：この対応は不適切である。参加を妨げる。

総合解説：特に人工内耳では手術前から術後療育まで連続した協力体制が求められる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0118

小児聴覚障害 > 療育・教育・家族支援 | 難易度：標準

問題

「療育・教育・家族支援」について家族への情報提供を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：療育効果を症例から再評価できる：聴力・補聴器適合・装用状況・全般発達・療育内容を再評価し、支援方針を見直す
イ：家族への情報提供を整理する：専門用語だけで説明する
ウ：本人中心の教育支援を整理する：本人が困る場面や希望を確認し、自分で配慮を依頼する力も育てる
エ：早期療育の重要性を整理する：十分なコミュニケーションアクセスを確保し、言語・認知・社会情緒発達を支える

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。期待される発達を得られない場合は原因を一つに決めつけず総合的に再評価する。
イ：この対応が誤りである。理解を妨げる。
ウ：この対応は正しい。年齢とともに自己理解・自己権利擁護を支援することが重要である。
エ：この対応は正しい。早期支援は聴覚だけでなく子どもの全体発達を支える。

総合解説：一度の説明で終わらず、発達・状況に応じて繰り返し支援する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0119

小児聴覚障害 > 療育・教育・家族支援 | 難易度：応用

問題

療育・教育・家族支援の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 早期療育の重要性を整理する：発話だけを強制する / 家族中心支援を整理する：家庭言語を使わないよう指示する

イ： コミュニケーション方法の多様性を整理する：音声、手話、視覚情報、AAC等を含め、本人・家族のニーズに応じてアクセス可能な方法を検討する / 家庭での機器使用を支える：故障しても次回受診まで放置する

ウ： 学校参加を統合して支援できる：補聴器だけ渡して環境を変えない / 保護者コーチングを整理する：日常生活の中で子どものコミュニケーション機会を増やせるよう家族を支援する

エ： 療育効果を症例から再評価できる：聴力・補聴器適合・装用状況・全般発達・療育内容を再評価し、支援方針を見直す / 本人中心の教育支援を整理する：本人が困る場面や希望を確認し、自分で配慮を依頼する力も育てる

0120

小児聴覚障害 > 療育・教育・家族支援 | 難易度：標準

問題

「療育・教育・家族支援」に関する知識を横断して確認する。本人中心の教育支援を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：早期療育の重要性を整理する：十分なコミュニケーションアクセスを確保し、言語・認知・社会情緒発達を支える

イ：家族中心支援を整理する：家族の価値観・言語・生活・希望を確認し、情報を提供して共同で目標を決める

ウ：コミュニケーション方法の多様性を整理する：音声、手話、視覚情報、AAC等を含め、本人・家族のニーズに応じてアクセス可能な方法を検討する

エ：本人中心の教育支援を整理する：難聴を必ず隠すよう指導する

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 コミュニケーション選択を尊重する必要がある。 文化・言語背景を尊重する。

イ： は正しいが に誤りがある。 聴覚アクセスを失う。

ウ： に誤りがある。 騒音・距離の影響が残る。 は正しい。

エ： とも正しい。 期待される発達が得られない場合は原因を一つに決めつけず総合的に再評価する。 年齢とともに自己理解・自己権利擁護を支援することが重要である。

総合解説：必要に応じ人工内耳適応や他の発達障害の評価も検討する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。早期支援は聴覚だけでなく子どもの全体発達を支える。

イ：この対応は正しい。家族は療育チームの重要な一員である。

ウ：この対応は正しい。一つの方法を全員に強制するのではなく、十分な言語アクセスを保障する。

エ：この対応が誤りである。本人の選択を尊重しない。

総合解説：教育支援は聴取環境の調整だけでなく自己決定と社会参加も目標とする。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0121

補聴器・人工内耳 > 補聴器の選択・適合 | 難易度：基礎

問題

「補聴器の選択・適合」の補聴器基礎を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：補聴器選択を個別化する：全員に同じ機種を使う
イ：両耳装用の基本を整理する：耳型が不要になるため
ウ：RECDの意義を整理する：聴神経電位を記録するため
エ：補聴器の基本機能を整理する：入力音を聴力特性に合わせて増幅・処理し、残存聴力を活用しやすくする

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。個別化が必要である。
イ：この対応は不適切である。耳かけ型では耳型が必要なことが多い。
ウ：この対応は不適切である。ABRである。
エ：この対応は適切である。補聴器は音を増幅・処理して聴覚アクセスを改善する機器である。

総合解説：適切な適合には聴力・語音・生活ニーズ・装用効果の評価が必要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0122

補聴器・人工内耳 > 補聴器の選択・適合 | 難易度：標準

問題

「補聴器の選択・適合」について補聴器選択を個別化するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：両耳装用の基本を整理する：両耳聴による音源定位や騒音下聴取などの利点を活用するため
イ：RECDの意義を整理する：個々の外耳道音響特性を反映し、カブラ測定から実耳での出力を推定しやすくするため
ウ：小児補聴器適合を統合して評価できる：RECD等を用いた客観的検証と、装用下の聴覚反応・発達を継続的に確認する
エ：補聴器選択を個別化する：純音閾値だけで生活上のニーズを無視する

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。両側の聴覚入力を確保することは発達期の聴覚アクセスに重要である。
イ：この対応は正しい。乳幼児は外耳道が小さく成長も速いため、成人平均値だけでは実耳出力を正確に推定しにくい。
ウ：この対応は正しい。処方式ターゲットへの一致と実際の効果の両方を検証する必要がある。
エ：この対応が誤りである。機能的目標も重要である。

総合解説：小児では成長、耐久性、保護者の管理能力も考慮する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0123

補聴器・人工内耳 > 補聴器の選択・適合 | 難易度：基礎

問題

補聴器の選択・適合の学習で両耳補聴を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：両耳装用の基本を整理する：両耳聴による音源定位や騒音下聴取などの利点を活用するため
イ：RECDの意義を整理する：聴神経電位を記録するため
ウ：小児補聴器適合を統合して評価できる：装用後の発達を評価しない
エ：最大出力調整を整理する：聴力を正常化するため

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。両側の聴覚入力を確保することは発達期の聴覚アクセスに重要である。
イ：この対応は不適切である。ABRである。
ウ：この対応は不適切である。効果判定に重要である。
エ：この対応は不適切である。補聴器は難聴自体を治癒しない。

総合解説：病態や左右差に応じ例外はあるが、小児では両耳聴の実現が重視される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0124

補聴器・人工内耳 > 補聴器の選択・適合 | 難易度：標準

問題

「補聴器の選択・適合」に関する知識を横断して確認する。RECDの意義を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：RECDの意義を整理する：語音明瞭度を直接測るため
イ：小児補聴器適合を統合して評価できる：RECD等を用いた客観的検証と、装用下の聴覚反応・発達を継続的に確認する
ウ：最大出力調整を整理する：必要な可聴性を確保しつつ、過大な音を不快・危険なレベルにしないため
エ：語音明瞭度による適合評価を整理する：補聴器装用時の語音明瞭度曲線または語音明瞭度の測定

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。語音検査ではない。
イ：この対応は正しい。処方式ターゲットへ的一致と実際の効果の両方を検証する必要がある。
ウ：この対応は正しい。十分な利得と安全な最大出力の両立が必要である。
エ：この対応は正しい。補聴器が語音聴取を悪化させず、適切に改善しているかを評価する重要な項目である。

総合解説：RECDは小児の安全で適切な利得・最大出力設定に役立つ。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0125補聴器・人工内耳 > 補聴器の選択・適合 | 難易度：応用

問題

補聴器の選択・適合の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア：小児補聴器適合を統合して評価できる：RECD等を用いた客観的検証と、装用下の聴覚反応・発達を継続的に確認する / 最大出力調整を整理する：必要な可聴性を確保しつつ、過大な音を不快・危険なレベルにしないため

イ：語音明瞭度による適合評価を整理する：発声持続時間だけ / 環境騒音の許容評価を整理する：語音検査が良ければ他評価は不要だから

ウ：耳型の管理を整理する：外耳道・耳介の成長で密閉性が変化し、ハウリングや音響特性に影響するため / 圧縮増幅の目的を整理する：聴神経を外科的に刺激する

エ：補聴器の実生活効果を症例から再評価できる：実耳測定が良ければ訴えを無視する / 定期再適合を整理する：聴力変動、耳の成長、言語発達、生活環境の変化に応じて設定を見直す必要があるため

0126補聴器・人工内耳 > 補聴器の選択・適合 | 難易度：標準

問題

「補聴器の選択・適合」について最大出力調整を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：語音明瞭度による適合評価を整理する：補聴器装用時の語音明瞭度曲線または語音明瞭度の測定

イ：環境騒音の許容評価を整理する：語音が聞きやすくても環境音が過度にうるさければ持続装用が困難になるため

ウ：最大出力調整を整理する：語音を必ず100%理解させるため

エ：耳型の管理を整理する：外耳道・耳介の成長で密閉性が変化し、ハウリングや音響特性に影響するため

答え・解説正答：ア

ア：とも正しい。処方式ターゲットへの一致と実際の効果の両方を検証する必要がある。十分な利得と安全な最大出力の両立が必要である。

イ：に誤りを含む。音声評価である。複数項目が必要である。

ウ：は正しいがに誤りがある。人工内耳である。

エ：に誤りがある。機能的アウトカムが重要である。は正しい。

総合解説：小児では耳の成長や聴力変化に伴って再調整が必要となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は正しい。補聴器が語音聴取を悪化させず、適切に改善しているかを評価する重要な項目である。

イ：この対応は正しい。日本聴覚医学会の指針では環境騒音の許容も必須項目である。

ウ：この対応が誤りである。保証できない。

エ：この対応は正しい。乳幼児では耳の成長が速く耳型交換が必要になりやすい。

総合解説：小児では測定したRECDを使うことで過大出力の回避にも役立つ。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0127

補聴器・人工内耳 > 補聴器の選択・適合 | 難易度：基礎

問題

補聴器の選択・適合の学習で適合検査を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：語音明瞭度による適合評価を整理する：補聴器装用時の語音明瞭度曲線または語音明瞭度の測定
イ：環境騒音の許容評価を整理する：語音検査が良ければ他評価は不要だから
ウ：耳型の管理を整理する：耳型で言語発達を測るため
エ：圧縮増幅の目的を整理する：全入力音を一定音圧にする

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。補聴器が語音聴取を悪化させず、適切に改善しているかを評価する重要な項目である。
イ：この対応は不適切である。複数項目が必要である。
ウ：この対応は不適切である。評価器具ではない。
エ：この対応は不適切である。圧縮の目的ではない。

総合解説：装用時と非装用時を比較して補聴効果を検討する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0128

補聴器・人工内耳 > 補聴器の選択・適合 | 難易度：標準

問題

「補聴器の選択・適合」に関する知識を横断して確認する。環境騒音の許容評価を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：環境騒音の許容評価を整理する：騒音の感じ方は適合と無関係だから
イ：耳型の管理を整理する：外耳道・耳介の成長で密閉性が変化し、ハウリングや音響特性に影響するため
ウ：圧縮増幅の目的を整理する：小さい音を可聴にしつつ、大きい音が過度に不快にならないよう出力範囲へ収める
エ：補聴器の実生活効果を症例から再評価できる：語音・騒音下聴取、環境、装用状況、遠隔マイク等の追加支援を評価する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。継続装用に関係する。
イ：この対応は正しい。乳幼児では耳の成長が速く耳型交換が必要になりやすい。
ウ：この対応は正しい。聴覚の狭くなったダイナミックレンジに音声を適応させる。
エ：この対応は正しい。電気音響的適合が良好でも実生活上の困難が残ることがある。

総合解説：適合は語音聴取と日常環境での快適性を両面から評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0129

補聴器・人工内耳 > 補聴器の選択・適合 | 難易度：基礎

問題

「補聴器の選択・適合」の小児補聴を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：耳型の管理を整理する：外耳道・耳介の成長で密閉性が変化し、ハウリングや音響特性に影響するため
イ：圧縮増幅の目的を整理する：全入力音を一定音圧にする
ウ：補聴器の実生活効果を症例から再評価できる：補聴器を即中止する
エ：定期再適合を整理する：聴力は小児期に絶対変化しない

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。乳幼児では耳の成長が速く耳型交換が必要になりやすい。
イ：この対応は不適切である。圧縮の目的ではない。
ウ：この対応は不適切である。まず原因と追加支援を検討する。
エ：この対応は不適切である。変動・進行する場合がある。

総合解説：装用状態、皮膚、耳垢、ハウリングも継続確認する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0130

補聴器・人工内耳 > 補聴器の選択・適合 | 難易度：標準

問題

「補聴器の選択・適合」について圧縮増幅の目的を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：補聴器の実生活効果を症例から再評価できる：語音・騒音下聴取、環境、装用状況、遠隔マイク等の追加支援を評価する
イ：定期再適合を整理する：聴力変動、耳の成長、言語発達、生活環境の変化に応じて設定を見直す必要があるため
ウ：圧縮増幅の目的を整理する：中耳圧を調整する
エ：補聴器の基本機能を整理する：入力音を聴力特性に合わせて増幅・処理し、残存聴力を活用しやすくする

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。電気音響的適合が良好でも実生活上の困難が残ることがある。
イ：この対応は正しい。成長期は音響条件とコミュニケーション要求が変化する。
ウ：この対応が誤りである。補聴器信号処理ではない。
エ：この対応は正しい。補聴器は音を増幅・処理して聴覚アクセスを改善する機器である。

総合解説：圧縮比やニーポイントは聴力と快適性を考慮して設定する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0131

補聴器・人工内耳 > 補聴器の選択・適合 | 難易度：応用

問題
補聴器の選択・適合の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。ここでは「補聴器・実生活」との関連を手掛かりに整理する。

- ア： 補聴器の基本機能を整理する：聴神経へ直接電気刺激を送る / 補聴器選択を個別化する：全員に同じ機種を使う
- イ： 両耳装用の基本を整理する：両耳聴による音源定位や騒音下聴取などの利点を活用するため / RECDの意義を整理する：中耳圧を測定するため
- ウ： 小児補聴器適合を統合して評価できる：初期設定なら検証不要とする / 最大出力調整を整理する：必要な可聴性を確保しつつ、過大な音を不快・危険なレベルにしないため
- エ： 補聴器の実生活効果を症例から再評価できる：語音・騒音下聴取、環境、装用状況、遠隔マイク等の追加支援を評価する / 定期再適合を整理する：聴力変動、耳の成長、言語発達、生活環境の変化に応じて設定を見直す必要があるため

答え・解説

正答：エ

- ア： に誤りを含む。人工内耳の仕組みである。個別化が必要である。
- イ： は正しいが に誤りがある。ティンパノメトリである。
- ウ： に誤りがある。個人差が大きい。は正しい。
- エ： とも正しい。電気音響的適合が良好でも実生活上の困難が残ることがある。成長期は音響条件とコミュニケーション要求が変化する。

総合解説：補聴器適合はverificationとvalidationの両方が必要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0132

補聴器・人工内耳 > 補聴器の選択・適合 | 難易度：標準

問題
「補聴器の選択・適合」に関する知識を横断して確認する。定期再適合を理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：補聴器の基本機能を整理する：入力音を聴力特性に合わせて増幅・処理し、残存聴力を活用しやすくする
- イ：補聴器選択を個別化する：聴力型・程度、年齢、耳の状態、生活環境、操作能力、本人の希望を統合する
- ウ：両耳装用の基本を整理する：両耳聴による音源定位や騒音下聴取などの利点を活用するため
- エ：定期再適合を整理する：補聴器設定は一度決めると変更できない

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は正しい。補聴器は音を増幅・処理して聴覚アクセスを改善する機器である。
- イ：この対応は正しい。同じ聴力でも最適な機器・設定は生活条件によって異なる。
- ウ：この対応は正しい。両側の聴覚入力を確保することは発達期の聴覚アクセスに重要である。
- エ：この対応が誤りである。変更可能である。

総合解説：定期的な聴力、実耳/RECD、装用効果、機器状態の確認が必要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0133

補聴器・人工内耳 > 人工内耳の適応・マッピング | 難易度：基礎

問題

「人工内耳の適応・マッピング」のCI基礎を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：人工内耳の基本原理を整理する：損傷した内耳の機能を一部迂回し、電極で聴神経を電気刺激する
イ：2026年成人CI適応基準を整理する：平均40 dBの軽度難聴
ウ：小児CI適応の前提を整理する：聴力検査なしで適応を決める
エ：小児CIの原則的手術時期を整理する：原則10歳以上

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。人工内耳は音を電気信号へ変換し、蝸牛内電極から聴神経へ伝える。
イ：この対応は不適切である。この条件には該当しない。
ウ：この対応は不適切である。各種聴力検査と補聴効果判定が必要である。
エ：この対応は不適切である。基準と異なる。

総合解説：人工内耳は正常聴力を回復する装置ではなく、新しい聴覚信号への適応が必要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0134

補聴器・人工内耳 > 人工内耳の適応・マッピング | 難易度：標準

問題

「人工内耳の適応・マッピング」について2026年成人CI適応基準を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：小児CI適応の前提を整理する：手術前から術後療育まで家族・医療・療育機関の一貫した協力体制があること
イ：小児CIの原則的手術時期を整理する：体重8 kg以上または1歳以上
ウ：2026年成人CI適応基準を整理する：伝音難聴のみで平均50 dB
エ：CI適応を補聴効果と発達から統合できる：補聴器適合を再確認した上で、人工内耳チームによる適応評価を検討する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。小児CIは手術だけで完結せず、長期的な聴覚・言語療育が必要である。
イ：この対応は正しい。基準は症例ごとの条件を満たした上で、原則体重8 kg以上または1歳以上としている。
ウ：この対応が誤りである。基準は重度感音難聴を対象とする。
エ：この対応は正しい。CI適応は裸耳聴力だけでなく補聴効果と機能的・言語発達成果を考慮する。

総合解説：70 dB以上90 dB未満では、適切な補聴器装用下の語音明瞭度も条件となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0135

補聴器・人工内耳 > 人工内耳の適応・マッピング | 難易度：基礎

問題

人工内耳の適応・マッピングの学習で小児CI適応を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：小児CIの原則的手術時期を整理する：原則10歳以上
イ：小児CI適応の前提を整理する：手術前から術後療育まで家族・医療・療育機関の一貫した協力体制があること
ウ：CI適応を補聴効果と発達から統合できる：言語発達が遅くてもCI評価は行わない
エ：マッピングの目的を整理する：聴力を生理的正常へ戻すこと

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。基準と異なる。
イ：この対応は適切である。小児CIは手術だけで完結せず、長期的な聴覚・言語療育が必要である。
ウ：この対応は不適切である。適応評価を検討する根拠となる。
エ：この対応は不適切である。CIの目的ではない。

総合解説：本人・家族・医師・療育担当で適応と目標を共有する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0136

補聴器・人工内耳 > 人工内耳の適応・マッピング | 難易度：標準

問題

「人工内耳の適応・マッピング」に関する知識を横断して確認する。小児CIの原則的手術時期を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：CI適応を補聴効果と発達から統合できる：補聴器適合を再確認した上で、人工内耳チームによる適応評価を検討する
イ：マッピングの目的を整理する：各電極の電気刺激範囲や処理条件を個人に合わせ、可聴性と快適性を最適化する
ウ：小児CIの原則的手術時期を整理する：体重20 kg以上のみ
エ：電極インピーダンスの確認を整理する：電極系の機能・状態を確認し、異常電極がないか把握するため

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。CI適応は裸耳聴力だけでなく補聴効果と機能的・言語発達成果を考慮する。
イ：この対応は正しい。CIでは電気刺激の下限・上限や周波数割当などを調整する。
ウ：この対応が誤りである。基準と異なる。
エ：この対応は正しい。異常インピーダンスは音質や刺激設定へ影響する可能性がある。

総合解説：例外条件や全身状態、正確な聴覚評価、補聴効果を総合して手術時期を決める。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0137

補聴器・人工内耳 > 人工内耳の適応・マッピング | 難易度：応用

問題

人工内耳の適応・マッピングの関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 電極インピーダンスの確認を整理する：語彙能力を直接測るため / 主観・客観指標を組み合わせる理由を整理する：行動反応は一切不要になる

イ： マッピング後の不十分な成果を症例から再評価できる：マップ、電極状態、装用状況、聴取評価、療育・医学的要因を包括的に再評価する / 成人Ci適応の補聴器装用条件を整理する：補聴器未調整の状態での自己申告だけ

ウ： Ci適応を補聴効果と発達から統合できる：補聴器適合を再確認した上で、人工内耳チームによる適応評価を検討する / マッピングの目的を整理する：各電極の電気刺激範囲や処理条件を個人に合わせ、可聴性と快適性を最適化する

エ： 人工内耳の基本原理を整理する：鼓膜を機械的に振動させるだけ / 2026年成人Ci適応基準を整理する：500・1000・2000 Hzの平均聴力レベルが90 dB以上の重度感音難聴

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 言語評価ではない。 可能な範囲で併用する。

イ： は正しいが に誤りがある。 適切な補聴器装用と検査が必要である。

ウ： とともに正しい。 Ci適応は裸耳聴力だけでなく補聴効果と機能的・言語発達成果を考慮する。 Ciでは電気刺激の下限・上限や周波数割当などを調整する。

エ： に誤りがある。 Ciの中心原理ではない。 は正しい。

総合解説：小児Ci評価では聴力、補聴効果、語音・言語発達、全般発達、家族・療育環境を統合する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0138

補聴器・人工内耳 > 人工内耳の適応・マッピング | 難易度：標準

問題

「人工内耳の適応・マッピング」についてマッピングの目的を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：電極インピーダンスの確認を整理する：電極系の機能・状態を確認し、異常電極がないか把握するため

イ：マッピングの目的を整理する：手術創を閉じること

ウ：主観・客観指標を組み合わせる理由を整理する：幼児では主観的な大きさ判断が不安定なことがあり、刺激設定の補助情報になるため

エ：マッピング後の不十分な成果を症例から再評価できる：マップ、電極状態、装用状況、聴取評価、療育・医学的要因を包括的に再評価する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。異常インピーダンスは音質や刺激設定へ影響する可能性がある。

イ：この対応が誤りである。外科手技である。

ウ：この対応は正しい。客観指標は行動測定を補完する。

エ：この対応は正しい。不良成果はプログラミングだけでなく複数要因から生じ得る。

総合解説：マップは装用後の適応・反応に合わせて複数回調整される。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0139

補聴器・人工内耳 > 人工内耳の適応・マッピング | 難易度：基礎

問題

人工内耳の適応・マッピングの学習でCIマッピングを行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：主観・客観指標を組み合わせる理由を整理する：行動反応は一切不要になる
イ：マッピング後の不十分な成果を症例から再評価できる：療育を中止する
ウ：電極インピーダンスの確認を整理する：電極系の機能・状態を確認し、異常電極がないか把握するため
エ：成人CI適応の補聴器装用条件を整理する：語音明瞭度が100%

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。可能な範囲で併用する。
イ：この対応は不適切である。継続的な聴覚リハが重要である。
ウ：この対応は適切である。異常インピーダンスは音質や刺激設定へ影響する可能性がある。
エ：この対応は不適切である。この条件には該当しない。

総合解説：必要に応じ異常電極の使用停止や設定変更を検討する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0140

補聴器・人工内耳 > 人工内耳の適応・マッピング | 難易度：標準

問題

「人工内耳の適応・マッピング」に関する知識を横断して確認する。主観・客観指標を組み合わせる理由を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：マッピング後の不十分な成果を症例から再評価できる：マップ、電極状態、装用状況、聴取評価、療育・医学的要因を包括的に再評価する
イ：成人CI適応の補聴器装用条件を整理する：適切な補聴器装用下、65 dB SPLの語音明瞭度が50%以下
ウ：人工内耳の基本原理を整理する：損傷した内耳の機能を一部迂回し、電極で聴神経を電気刺激する
エ：主観・客観指標を組み合わせる理由を整理する：客観指標だけで言語発達まで完全に予測できる

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。不良成果はプログラミングだけでなく複数要因から生じ得る。
イ：この対応は正しい。2026年の成人人工内耳適応基準に明記されている条件である。
ウ：この対応は正しい。人工内耳は音を電気信号へ変換し、蝸牛内電極から聴神経へ伝える。
エ：この対応が誤りである。できない。

総合解説：最終的なマップは装用者の反応、快適性、聴取成果を含めて調整する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0141

補聴器・人工内耳 > 人工内耳の適応・マッピング | 難易度：応用

問題

「人工内耳の適応・マッピング」についてマッピング後の不十分な成果を症例から再評価できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 人工内耳の基本原理を整理する：聴覚皮質へ直接電極を置く / 2026年成人CI適応基準を整理する：伝音難聴のみで平均50 dB

イ： マッピング後の不十分な成果を症例から再評価できる：マップ、電極状態、装用状況、聴取評価、療育・医学的要因を包括的に再評価する / 成人CI適応の補聴器装用条件を整理する：適切な補聴器装用下、65 dB SPLの語音明瞭度が50％以下

ウ： 小児CI適応の前提を整理する：手術前から術後療育まで家族・医療・療育機関の一貫した協力体制があること / 小児CIの原則的手術時期を整理する：原則10歳以上

エ： CI適応を補聴効果と発達から統合できる：言語発達が遅くてもCI評価は行わない / マッピングの目的を整理する：各電極の電気刺激範囲や処理条件を個人に合わせ、可聴性と快適性を最適化する

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 通常の人工内耳ではない。 基準は重度感音難聴を対象とする。

イ： とも正しい。 不良成果はプログラミングだけでなく複数要因から生じ得る。 2026年の成人人工内耳適応基準に明記されている条件である。

ウ： は正しいが に誤りがある。 基準と異なる。

エ： に誤りがある。 適応評価を検討する根拠となる。 は正しい。

総合解説：CIフォローではプログラミングと聴覚リハ、医学的管理を連携させる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0142

補聴器・人工内耳 > 人工内耳の適応・マッピング | 難易度：標準

問題

「人工内耳の適応・マッピング」について成人CI適応の補聴器装用条件を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：成人CI適応の補聴器装用条件を整理する：伝音難聴のみで語音明瞭度50％以下

イ：人工内耳の基本原理を整理する：損傷した内耳の機能を一部迂回し、電極で聴神経を電気刺激する

ウ：2026年成人CI適応基準を整理する：500・1000・2000 Hzの平均聴力レベルが90 dB以上の重度感音難聴

エ：小児CI適応の前提を整理する：手術前から術後療育まで家族・医療・療育機関の一貫した協力体制があること

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。基準は高度感音難聴を対象とする。

イ：この対応は正しい。人工内耳は音を電気信号へ変換し、蝸牛内電極から聴神経へ伝える。

ウ：この対応は正しい。2026基準では平均90 dB以上が聴力条件の一つである。

エ：この対応は正しい。小児CIは手術だけで完結せず、長期的な聴覚・言語療育が必要である。

総合解説：CI適応はこの数値だけでなく慎重適応事項・本人意思・背景を総合して判断する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0143

補聴器・人工内耳 > 装用評価・補聴援助システム | 難易度：基礎

問題

装用評価・補聴援助システムの学習で装用評価を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：装用評価の目的を整理する：機器が音を出しているかだけでなく、語音聴取と日常コミュニケーションが改善しているか確認する
イ：遠隔マイクの目的を整理する：背景雑音を意図的に増やす
ウ：補聴援助システムの種類を整理する：鼓膜切開刀だけ
エ：学校での機器チェックを整理する：見た目だけで動作確認を省く

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。装用効果は客観検査と機能的アウトカムの両方で評価する。
イ：この対応は不適切である。逆である。
ウ：この対応は不適切である。治療器具である。
エ：この対応は不適切である。音が届いているか確認できない。

総合解説：装用下語音、騒音下聴取、質問紙、学校・家庭での観察を組み合わせる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0144

補聴器・人工内耳 > 装用評価・補聴援助システム | 難易度：標準

問題

「装用評価・補聴援助システム」に関する知識を横断して確認する。遠隔マイクの目的を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：補聴援助システムの種類を整理する：FM/DM遠隔マイク、ループシステム、Bluetoothストリーミング等
イ：学校での機器チェックを整理する：補聴器・CIと遠隔マイクの電源、接続、音質を実際に確認する
ウ：補聴援助システムの効果を症例から判断できる：教室音響を評価し、遠隔マイク等を試して装用下語音・本人評価で効果を確認する
エ：遠隔マイクの目的を整理する：聴力そのものを治癒する

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。環境や用途に応じて音声を直接・明瞭に届ける技術がある。
イ：この対応は正しい。故障や接続不良があると一日中聴覚アクセスを失う可能性がある。
ウ：この対応は正しい。距離と雑音の問題には補聴器利得だけでなくSNR改善が有効である。
エ：この対応が誤りである。補聴援助機器であり治療ではない。

総合解説：学校では児童の補聴器・CI等との接続と実際の教室での効果を確認する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0145

補聴器・人工内耳 > 装用評価・補聴援助システム | 難易度：基礎

問題

「装用評価・補聴援助システム」のHATSを確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：学校での機器チェックを整理する：見た目だけで動作確認を省く
イ：補聴援助システムの効果を症例から判断できる：席を離してさらに後方にする
ウ：補聴援助システムの種類を整理する：FM/DM遠隔マイク、ループシステム、Bluetoothストリーミング等
エ：bimodal装用を整理する：両側CI装用

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。音が届いているか確認できない。
イ：この対応は不適切である。距離の影響が増える。
ウ：この対応は適切である。環境や用途に応じて音声を直接・明瞭に届ける技術がある。
エ：この対応は不適切である。両耳ともCIである。

総合解説：HATSは補聴器・CIの有無にかかわらず必要に応じ利用される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0146

補聴器・人工内耳 > 装用評価・補聴援助システム | 難易度：標準

問題

「装用評価・補聴援助システム」について学校での機器チェックを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：学校での機器チェックを整理する：教師のマイクを教室の後方に置く
イ：補聴援助システムの効果を症例から判断できる：教室音響を評価し、遠隔マイク等を試して装用下語音・本人評価で効果を確認する
ウ：bimodal装用を整理する：bimodal装用
エ：装用効果を多面的に統合できる：音場閾値だけで成功とせず、語音・機能的聴取・言語・装用時間・マップ・環境を再評価する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。話者に近く装着するのが基本である。
イ：この対応は正しい。距離と雑音の問題には補聴器利得だけでなくSNR改善が有効である。
ウ：この対応は正しい。片耳CIと対側補聴器を組み合わせ、残存聴力を活用する。
エ：この対応は正しい。可聴性の改善とコミュニケーション成果は同一ではない。

総合解説：教育スタッフも基本的な機器チェックとトラブル対応を共有する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0147

補聴器・人工内耳 > 装用評価・補聴援助システム | 難易度：応用

問題
「装用評価・補聴援助システム」について補聴援助システムの効果を症例から判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

- ア： 装用効果を多面的に統合できる：閾値が良ければ追加評価不要とする / 補聴援助技術を継続評価する：教師の使用状況は効果と無関係である
- イ： 補聴援助システムの効果を症例から判断できる：教室音響を評価し、遠隔マイク等を試して装用下語音・本人評価で効果を確認する / bimodal装用を整理する：bimodal装用
- ウ： 装用評価の目的を整理する：機器が音を出しているかだけでなく、語音聴取と日常コミュニケーションが改善しているか確認する / 遠隔マイクの目的を整理する：聴力そのものを治癒する
- エ： 補聴援助システムの種類を整理する：耳鏡だけ / 学校での機器チェックを整理する：補聴器・CIと遠隔マイクの電源、接続、音質を実際に確認する

答え・解説

正答：イ

- ア： に誤りを含む。 機能的成果が不十分である。 適切なマイク使用が重要である。
- イ： とも正しい。 距離と雑音の問題には補聴器利得だけでなくSNR改善が有効である。 片耳CIと対側補聴器を組み合わせ、残存聴力を活用する。
- ウ： は正しいが に誤りがある。 補聴援助機器であり治療ではない。
- エ： に誤りがある。 診察機器である。 は正しい。

総合解説：機器導入後も検証・validationを行い、実環境での効果を確認する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0148

補聴器・人工内耳 > 装用評価・補聴援助システム | 難易度：標準

問題
「装用評価・補聴援助システム」に関する知識を横断して確認する。bimodal装用を理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：装用効果を多面的に統合できる：音場閾値だけで成功とせず、語音・機能的聴取・言語・装用時間・マップ・環境を再評価する
- イ：補聴援助技術を継続評価する：導入後も接続・音質・児童の聞き取り・授業参加を定期的に確認する
- ウ：bimodal装用を整理する：両側補聴器装用
- エ：装用評価の目的を整理する：機器が音を出しているかだけでなく、語音聴取と日常コミュニケーションが改善しているか確認する

答え・解説

正答：ウ

- ア：この対応は正しい。可聴性の改善とコミュニケーション成果は同一ではない。
- イ：この対応は正しい。機器は導入しただけでは十分でなく、実環境での効果確認が必要である。
- ウ：この対応が誤りである。CIを含まない。
- エ：この対応は正しい。装用効果は客観検査と機能的アウトカムの両方で評価する。

総合解説：対側耳の残存聴力と機能的利得を評価して継続使用を判断する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0149

補聴器・人工内耳 > 装用評価・補聴援助システム | 難易度：応用

問題

装用評価・補聴援助システムの関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 装用効果を多面的に統合できる：音場閾値だけで成功とせず、語音・機能的聴取・言語・装用時間・マップ・環境を再評価する / 補聴援助技術を継続評価する：導入後も接続・音質・児童の聞き取り・授業参加を定期的に確認する

イ： 装用評価の目的を整理する：購入価格だけで判断する / 遠隔マイクの目的を整理する：補聴器やCIと併用できない

ウ： 補聴援助システムの種類を整理する：FM/DM遠隔マイク、ループシステム、Bluetoothストリーミング等 / 学校での機器チェックを整理する：教師のマイクを教室の後方に置く

エ： 補聴援助システムの効果を症例から判断できる：学校での困難は評価対象外とする / bimodal装用を整理する：bimodal装用

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 可聴性の改善とコミュニケーション成果は同一ではない。 機器は導入しただけでは十分でなく、実環境での効果確認が必要である。

イ： に誤りを含む。 効果とは無関係である。 多くの機器と連携可能である。

ウ： は正しいが に誤りがある。 話者に近く装着するのが基本である。

エ： に誤りがある。 重要な参加場面である。 は正しい。

総合解説：機器評価と療育・教育評価を統合して支援を調整する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0150

補聴器・人工内耳 > 装用評価・補聴援助システム | 難易度：標準

問題

「装用評価・補聴援助システム」について補聴援助技術を継続評価するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：補聴援助技術を継続評価する：導入後は故障確認不要である

イ：装用評価の目的を整理する：機器が音を出しているだけでなく、語音聴取と日常コミュニケーションが改善しているか確認する

ウ：遠隔マイクの目的を整理する：教師の声を聞き手へ直接近い信号として届け、距離と背景雑音の影響を減らす

エ：補聴援助システムの種類を整理する：FM/DM遠隔マイク、ループシステム、Bluetoothストリーミング等

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。日常チェックが必要である。

イ：この対応は正しい。装用効果は客観検査と機能的アウトカムの両方で評価する。

ウ：この対応は正しい。遠隔マイクはSNRを改善し、騒音・残響・距離の影響を軽減する。

エ：この対応は正しい。環境や用途に応じて音声を直接・明瞭に届ける技術がある。

総合解説：臨床と学校の聴覚専門職が連携してverificationとvalidationを行う。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08